巻頭言



普及対策；ディベロップメント（発展）チームの設立案について

日本ハンドボール協会常務理事
大西　武三

ハンドボールの普及と強化はどの時代でも、大きな課題である。その一つの課題である普及については長期、短期的視野に立ちいろんな施策が実施されている。指導者の育成、小学校体育への導入、ビーチハンドボール等であるが、それ以外に現時点に目を向ける施策が必要である。これは現在ハンドボールをしている人をもっと大事にして、さらなるハンドボールの愛好家になってもらうことである。トップレベルのハンドボールはよりプロフェッショナルな傾向に今後とも進むであろうが、それを支える多くのハンドボール愛好家は今後ともアマチュアリズムの中で活動を続けていくであろう。このような人達を支援していくことが、愛好家を増やしていく原動力になる。人が人を呼ぶ方式で普及させていくことは、ナショナルチームがオリンピック等に出場してめざましい活躍をし、マスコミを通じて爆発的に多くのファンを作り出すのとその性質は違うが同じような力をもっていると考えられる。

では、ハンドボールを現在やっている人々を如何にして大事にし、支援していくか、その方法である。

周りを見渡してみるとハンドボールを本当に愛好し、好きでたまらない人がいる。ハンドボール競技のよさ、面白さを知っている人達である。報酬はいらない、ハンドボールのためだったら、どこにでも出かけようという人達である。若い人から、年配の人までそのような人がおられるものである。若い人では、今いる環境ではハンドボールのエネルギーを発散できない人である。年配の人では、現役を退いてもハンドボールに対する愛情が衰えず、まだまだそのエネルギーを違った形で発揮してもらいたい方である。協会の手帳には、すでに執行部から離れ、名誉職的な人になっている方もおられる。そのような方々がチームを組み、知名度を利用して普及の旗手として、県下の各チームを積極的に支援し、ハンドボールを親しむ人達がより楽しんでもらうようにしようとするものがディベロップメントチームの骨子であり、このようなチームを各都道府県に一つ設置したらどうかというものである。

このチームはあくまでも「待ち」の姿勢でなく、こちらからあらゆる機会をとらえて積極的に出向き、支援をおくろうというものである。ハンドボール協会の公的な後ろ盾があれば活動もしやすいであろう。では何ができるのであろうか。机上のプランでは次のようなことも考えられる。

- ○人材の発掘（特に小学生、中学生、高校生のジュニア層を対象とする）
- ○優秀な人材がいるチームで指導者がいないチームへの指導・助言
- ○普及レベルにあるチームの巡回指導、指導者のいないチームへの巡回指導
- ○普及レベルにあるチームの合同練習会の開催
- ○各チーム指導者のコンタクト、アドバイス
- ○合宿や練習試合等のパイプ役
- ○スポーツ（ハンドボール）指導員の養成を通しての指導者の育成
- ○市町村ハンドボール協会の設立と市町村クラブチームの創設の手助け

ハンドボール競技も日本に上陸して76年、日本協会が設立されて60年である。人材不足とよくいわれるが、そうではなく、多くの人材を育てながら、その人材を放置している面がある。地道な普及という仕事に手を貸してくださる人を今一度見直し、チームを組んで活動していただければという提案をディベロップメントチーム設立というかたちで述べさせていただきました。

新役員の抱負

副会長就任に当たって



中澤　重夫

副会長就任に当たって、全国のハンドボール関係者の皆様に、今までのご協力に感謝すると共に、今後の抱負を述べ、ご挨拶をさせていただきます。

私にとって、昨年の第15回男子世界選手権熊本大会を大成功裡に終えることが出来たのは、望外の喜びと感じております。当初は、色々な面で不安な要素が多々ありましたが、熊本の行政の方々や、全国のハンドボールファンのご協力で世界最高の成果を残せたことは、私のみならず、日本ハンドボール界の大きな成果でありましょう。

さて、この成果を基に、21世紀に向かって日本ハンドボール界がさらなる発展を遂げるため、新たに執行部を形成することを決意いたしました。皆様すでにご承知の通り、専務理事には、湧永製薬の市原則之氏が推挙されました。市原氏は、ロサンゼルスオリンピック予選では、一度追いつめられた日本代表チームを立ち直らせ、韓国に逆転勝ちを納め代表権を獲得した監督であります。また、現在JOC理事としても活躍中の方でもあります。市原氏には過去の実績をふまえ、今後のご活躍を期待しております。

私もまた、光栄にも副会長に推され、日本ハンドボール界の発展のため尽力いたすこととなりました。一段高い席ではございますが、皆様と共に歩んでいきたいと考えております。

今後のハンドボールの発展を考えますに、どうしても地域ハンドボールの考え方はおろそかにできないと思っております。今まではハンドボールといえば学校体育を中心に発展を遂げ、高等学校の先生方に多大なご苦労をおかけしてきました。この状況は現在もさほど変わるものではありません。しかしながら、すでに文部省ではスポーツ活動を、学校の外に出すことを方針として決めております。今すぐに現在の状況が変わるとは思えませんが、21世紀に向かって、ハンドボールもこの社会の動きに乗り遅れてはいけないと考えております。

しかしながら、現状では地域スポーツとしてのハンドボールの受け皿は、他競技に比べ、施設、指導者などをみても頼りない状況であるといっても過言ではないでしょう。Jリーグは100年構想の中で、地域密着型の総合スポーツクラブを目差しています。ここにジョイントしていくのもひとつの方法でありましょうし、ハンドボール独自の方向性を示すことも大切でありましょう。

これらのことは、まだ始まったばかりであります。サッカーはワールドカップに到達するのに30年を費やしています。ハンドボールではフランスが20年かかって世界チャンピオンになったといいます。我々日本ハンドボールは60周年を元年としてとらえ、これから皆様と共に歩むことを誓いまして、さらに皆様の今後のご活躍とご発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

新役員の抱負

副会長就任に当たって



冨田　寛治

去る3月15日開催の日本ハンドボール協会理事会に於て副会長に選任されました。

急な御指名でもあり、大変名誉なことではありますが、まるで経綸抱負といったものは無く、戸惑っているのが実情であります。

私がハンドボールを初めて知ったのは1972年、会社（大同特殊鋼）の星崎工場次長になった時ですから、もう四半世紀前のことになります。

当時は国内でハンドボールの知名度は非常に低く、日本リーグの試合でも観客は寥々たるものでした。

昨年の熊本に於ける世界ハンドボール選手権大会に、20万人を超える観客が集まったのと比べ、正に今昔の感があります。

私はその後、会社のハンドボール部長になったりして、ハンドボールのスポーツとしての素晴らしさを実感するようになりますが、ルールに疎く、今だに何故フリースローになったのかが分かっていません。

以前は、日本のハンドボールがメジャースポーツでないのは、ルールが分かりにくいのではないかと思ったことがありましたが、これは全く私の思い違いでした。

今や、ハンドボールは中学校の体育課目に入れられているそうですからルールは誰でも知っています。それが熊本の大観衆につながっているのでしょう。

この冬、長野冬季オリンピックには全国民がテレビに釘付けになり感動しました。

又その後のパラリンピックも、最初全く関心が無かった私も、日本選手の大健闘に胸が熱くなりました。

勿論、日本選手の活躍と無関係にあれだけ関心を呼んだのではありません。

日本選手が世界のトップクラスになった！国民にとってこれほどうれしいことはありません。

ハンドボールの世界も同じことです。歴史も古く、選手層も極めて厚いヨーロッパの壁を崩すことは容易ではありませんが、世界のベスト8に名を連ねれば、日本のハンドボールもメジャースポーツとして国民の関心をもっと呼ぶことになりましょう。

世界の強豪に如何にしてなるか、当面の協会の大きな課題に私として何を為すべきかを考え、皆さんの御意向のもとに私の努めを果たしたいと存じます。

どうか宜しくお願い致します。

新役員の抱負

専務理事就任に当たって



市原　則之

全員参加で"熊本"を"シドニー"へ

今般図らずも、評議員会の要請により伝統ある日本ハンドボール協会の専務理事を仰せつかることになりました。ここ数年の日本協会は、長年にわたり先輩諸兄が築いてこられた実績を基に、米倉会長並びに渡辺副会長の好指導を得て、中澤専務理事下で活発な活動を繰り返し着実に成果を上げてこられました。特に、記憶に新しい昨年5月の熊本男子世界選手権大会は、地元行政と見事にタイアップし、内外スポーツ界の注目を浴びるほどの大成功に終わり、一躍メジャー化の道標を示唆出来るまでになりました。

そうした中での専務理事交代は、果たして如何なものかといささか疑問を感じておりましたが、中澤専務理事を中心とした執行部各位の"熊本をシドニーに繋げる"ための勇気ある組織刷新という熱い思いを頂戴し、誠に力不足ではありますがお引き受けすることにいたしました。何れにしろ、関係各位のご協力なくしてスムーズな組織運営は出来ないと思いますので、どうか皆様方の格段のご支援とご指導を心からお願い申し上げる次第であります。また、ハンドボーラーの夢である"オリンピック出場"を再び果たすためにも、是非とも全国のハンドボール愛好者が"熊本をシドニーに結び付ける担い手"として、"全員参加"頂きたいと願っております。

さて、とは言うものの課題山積、協会運営の2本柱の「強化と普及」を推進するには、「組織を整備」して活性させ、それを動かす「財源基盤を確立」しなければなりません。それには、「短長期の事業計画」を立案し、それを執行するために「責任と権限」を明確にして「本部制の施行」や「事務局の強化」も図る必要があります。また、間接的な強化環境を充実させるためには、遅れている「広報部門」や「国際部門」にも力を注がなくてはなりません。なお、基礎強化に不可欠な、中・高・大学生等「ナショナルジュニア層の育成基金」も早く何とかせねばというところまできています。

しかしながら、何といっても早急な課題は、これらのエネルギーの素となる「自主財源の充実」であります。大変ありがたいことに、日本リーグ加盟の各社からは、熊本世界戦を契機に「特別強化費」のご援助を頂き、なお、現在も継続戴いているところですが、ただこれだけにすがっているわけには参りません。「自主財源の確保」には、各種大会の「観客動員を強化」し、「JHAマーケティングの高付加価値化」で従来のオフィシャルサプライヤーにオフィシャルライセンサー、ゴールドスポンサー、ナショナルサポーター等の制度を加え、更には、賛助会、後援会制度も定着させなければなりません。

以上の如く課題は数限りなく、果たして与えられた1年間でどれだけ消化出来るかいささかの不安はありますが、執行部全員が一丸となって目的達成のため頑張ってまいります。

協会はハンドボール愛好者みんなのものです。どうか"全員参加"のご協力をお願い申し上げます。

新役員の抱負

常務理事就任に当たって



村松　誠

このたび、図らずも浅学非才を省みず常務理事をお引き受けすることになりました。私が、日本協会と関わりを持ち始めて、もう20年を越すでしょうか。この間主に大西先生の下で指導者関係の仕事に携わり、公認コーチ養成、教育系大学研修会、公認コーチ研修会、シンポジュウムなどの運営などを手がけて参りました。このような仕事をこなす間に、優秀な指導者の方々や、全国の指導者の方々との出逢いがあり、この中でいろいろなことを学ばせていただきました。レフェリーとしてもいろいろな大会で、多くの方々に知己を得たことも幸いでした。特に、前指導委員会副委員長の本田娟一氏からは、仕事の手順から方法、ノウハウまで教わったことは大変役に立っております。まず感謝を申し上げたいと思います。

また、レフェリーのペアーである小山浩氏とは、長年レフェリーのペアとしてばかりでなく、コンピュータを通じ、ゲーム分析という仕事もして参りました。二人で、広島アジア選手権、アジア大会、世界選手権熊本と大きなイベントの中で一緒に仕事が出来たことも大変な収穫がありました。小山氏とは今後も一緒にハンドボール界のお役に立てるような仕事をして参りたいと考えております。

現在、常務理事をお引き受けしてから日も浅く、まだ何をして行ったら良いかもはっきり掴めていない状態であります。しかし、日本ハンドボール界には問題が山積していることは認識しているつもりであります。これらの問題に一つ一つ取り組むことを考えただけでも気の遠くなるような気がします。先ずは、前任者の路線を受け継ぎ、発展させていきたいと考えております。今後は、新たにハンドボール界の諸先輩や、全国のハンドボール愛好者の皆様から、貴重なご意見を賜り、ご指導ご鞭撻の基に、21世紀に向かうハンドボール界発展のために、微力ながら努めて参りたいと存じますので、ご支援のほどお願いいたします。

常務理事就任に当たって



川上　憲太

この度、広報企画担当常務理事を担当させて頂くこととなり、その重責とこれまで築いてこられた諸先輩のご苦労を思う時、身の引き締まる思いでいっぱいであります。

私は広島修道高校でハンドボールを始め慶応義塾大学ハンドボール部で4年間を過ごしました。大学時代は1部と2部のいったりきたりで苦労しました。

建設会社に入社して28年間サラリーマン生活を続けております。主に建築の営業部門を担当してきました。その間30才から40才迄の10年間を大学のコーチ・監督として過ごさせて頂きました。この監督時代に自分にとってはもう一度「ハンドボールの面白さ、深さ」の様なものを教えられた気がします。

以上の様に私は日本協会の仕事に関しては、今まで全く経験がありません。市原専務理事の「ビジネス感覚を取り入れた協会運営」「全く新しい視点からの協会運営」のお教えのもとにその一助となればと思い決心しました。とはいうものの一朝一夕に考えたものが実現されるとは思っていません。全国の皆様、スタッフの皆様の指導やご協力を頂き、きちんとした計画を練り、できることから手がけていきたいと思っています。

総花的にあれもこれもはできませんのでまず第一に、アジア大会、世界選手権、シドニー五輪に向けて「全日本チームをどうマスコミにのせていくか」をテーマに皆様とともに考え実行していきたいと思っています。

全国の皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新役員の抱負

常務理事就任に当たって



江成　元伸

　このたびの改選で競技運営担当を仰せつかりました。「競技」に関しては昨年、競技専門委員会が発足し、競技運営の組織的対応の再スタートが切られました。今年度はそこからさらに本格的な組織作り、運営体制の確立が求められております。

　昨年の世界選手権で競技運営の責任者として活動されたIHF・COC（競技運営）ミューレマッター委員長の大会運営の関わり方は、大会初日の代表者会議から毎日接し、大会運営はこうしなければならないとの思いを強く感じました。その後、世界選手権終了後のワールド・ドリーム・ゲーム、昨年8月のジャパンカップの運営等、大会運営としては主に裏方の仕事を担当いたしました。裏方としての活動が大会運営にどれだけ必要かということも体験させていただきました。このような経験を元に、昨年の男子全日本総合選手権大会の運営を任され、大会運営は全くの初心者でしたが、大会役員、ハンドボール関係者の皆様方のご支援・ご協力の下、何とか大会を切り盛りすることができました。これもひとえに世界選手権で得たIHF役員のバイタリティあふれる行動力を目の当たりに見たことにつきるかと思います。日本協会の役員として世界選手権大会に参加した喜びを今更ながら心強く感じています。さらには、今後は、これらの経験を生かしながら、日本協会としての大会運営の関与の仕方を模索していきたいと思っております。

　日本のハンドボール界はナショナル選手から小学生プレーヤーまで、シーズンを問わずの活動が行われております。各種大会は過密になり選手は休む暇もなく練習・試合に追われているといっても過言ではありません。日本のハンドボール界のスケジュール調整も競技委員会の重要な責務となると自覚しています。現実と将来を見据えた地道な活動を心がけたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

常務理事就任に当たって



喜井　美雄

　今期より、日本ハンドボール協会の国際を担当することになり身の引き締まる思いです。日本ハンドボール協会の中で、今後の発展と方向性を考えると国際的事業を抜きには出来ず、私の考え方、進め方、成果いかんで日本ハンドボールの将来が決まると考えると大変重責であり、責任をひしひしと感じる次第です。

　昨年の熊本の男子世界選手権を協会関係者の各位のご努力とご尽力により大成功に終わらせハンドボールも少しずつ世間に認知されるようになりました。

　しかし、大会を開催運営することだけが目的ではなかったと考えます。この機会にもっと国際的な施策展開が必要であり、世界の大会に出て実戦の中で、選手・スタッフと関係者が肌で感じ、新たな課題を見つけ次の行動に移さないと、世界のレベルから大きく取り残されていく事を痛感したのは、私だけではないと思います。

　日本ハンドボール協会の本年度方針は、「12月のアジア大会で次の世界選手権男女出場権をかけ、全力を尽くす。」さらには、「シドニーオリンピック出場に向け、継続した強化策の展開を図る。」また、「今後の選手強化の一環としてジュニア対策の強化も図る。」を受け、私の任務は、当然本年度の国際事業を遂行することでありますが、次の展開として、ジュニア～シニア男女が、世界の大会に出場出来るような場をつくることです。

　そのためには、世界の状況と情報を把握し、日本の強化に貢献できるように働きかけることです。その結果が日本の発展に繋がると確信しております。

　5年後、10年後を見据えて日本のハンドボールがメジャーになり、国際的にも通用する実力になるよう微力ながら精一杯努力しますので、よろしくお願いいたします。

新役員の抱負

常務理事就任に当たって

斉藤　実



この度審判部担当理事に指名されました斉藤です。全国の審判員を総轄する組織の船頭役としては、余りに弱点の多い私ですので、皆様のご支援とご協力を得ながら、この大役を果たしたいと思っておりますので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

さて、就任にあたっての抱負というテーマですので、一言申し述べます。

先日行われました平成9年度日本リーグプレーオフの男子ファイナルゲームでは、久々に興奮し観衆とコートが一体となったゲームを見ることが出来ました。こんなゲームが常に展開されるならば、観客席を満席にする大勢の観衆を会場に呼び寄せることが出来るのではないかと思います。それにはプレーヤーの技術・体力向上は勿論ですが、その研究開発した技術を評価し、パワーとスピード・テクニックをコート一面に展開させ、館内を興奮のるつぼと化させる審判員の役割は、さらに大きなものだと思っております。審判委員会の役割は、何時・何処で・誰が審判しても、素晴らしいゲームを演出出来る理想のレベルに引き上げ、一人でも多くの審判員を世界の桧舞台に送り出すことかと考えています。

今審判委員会には、その理想追求の為に、審判審査指導委員会、競技規則研究委員会、国際委員会、日本リーグ審判委員会、ブロック審判長、連盟審判長、総務委員会が設けてあります。それぞれに特徴的役割があり、活動が継続されているので再編は考えてはいません。寧ろ、各委員会の活動を活発化し、横の連絡を密にし情報整理して、各都道府県に流されるようパイプを通すのが私の役割かと心得ます。今、多少このパイプが詰まり気味であることは事実であります。このパイプ清掃にちょっと時間を下さい。清々しい雰囲気で役員としての仕事が出来、全審判員を素晴らしい演出の出来るレベルに引き上げ、会場が常に満員になることを目標に、精一杯頑張ってみたいと覚悟しております。

平成10年度事務責任者会議 報告

【期　日】平成10年度3月6日(日)
【時　間】13時～16時
【場　所】南青山会館
【出席者】
清水勝(北海道)・諏訪正徳(青森県)・岡市　武(岩手県)・高山千晶(秋田県)・遠藤　均(福島県)・雨谷秀樹(茨城県)・野中　毅(栃木県)・宇佐美幸彦(群馬県)・土屋雅男(埼玉県)・五味崇恵(千葉県)・井田一博(東京都)・黒田清貴(神奈川県)・辻　昌彦(山梨県)・幸塚孝行(富山県)・近藤帝善(福井県)・佐塚浩徳(静岡県)・村木啓作(愛知県)・今井田康雄(岐阜県)・金子又広(滋賀県)・吉田博二(京都府)・源野幸次(大阪府)・丸茂康子(兵庫県)・中川敏文(奈良県)・吉田達明(鳥取県)・原井　進(山口県)・上野裕司(愛媛県)・荒木雅浩(熊本県)・関健三(実連)・福地賢介(学連)・中野利一(教職員連)・比留間康(高体連)・佐分正典(関東)・鎌田雅彦(九州)　33名
【日本協会】市原則之・江成元伸・村松誠　3名
【事務局】齋藤博・本多正樹　2名

事務責任者会議は平成7年より開始、今年度で3回目になり都道府県協会及び連盟より33名の担当責任者が出席された。

会議にさきだち病気療養中であった清水正氏（関東ブロック協会会長・元日本協会常務理事）の訃報を受け冥福を祈り黙祷した。

今回は先頃JOCの理事として本年12月に実施するアジア競技大会視察でバンコクより帰国した市原理事の出席を頂き、各協会の事務責任者の日頃の労のねぎらいと今後引き続き日本協会とのパイプ役としてコミュニケーションを図って欲しい等挨拶があり本題に入った。

1. 報告事項

（1）第15回男子世界選手権熊本大会について

大会期間中に実施したフェスティバル大会及び観戦ツアーなどを通じて観客動員ができた。またフレンドシップを初めとして各方面より協賛金を頂いた件について運営面また財政面での協力に感謝の意を表し同大会の報告をした。

（2）日本協会創立60周年記念表彰について

50周年以降の10年間に貢献のあった人一人（過去に受賞した人を除く）を表彰するため都道府県協会及び連盟へ候補者として推薦を依頼、未提出の協会について再度3月13日までに会長名で（協会・会長印を捺印）提出を依頼した。提出のない場合は候補者として該当者なしとし、3月15日の理事会で表彰者を決定する報告をした。

（3）平成10年度事業計画及び事業日程について

各配布資料にて報告した。

（4）日本協会インターネットホームページの開設について

インターネット専門委員会により大会情報・大会スケジュール・全日本情報・新着情報等をインターネットで情報伝達及び情報入手の協力を依頼した。

全日本男子の橋本行弘選手（本田技研所属）がIHFワールド・オブ・ザ・イヤーにノミネートされた報告があり、ファン投票をお願いした。

（5）IHFの競技規則の改正に伴い「平成10年度競技規則」を3月1日に発売（定価1200円）した。

各協会で実施の講習会・研修会等で活用頂くよう依頼した。

（6）IHF協会間の移籍規定及び選手資格規定について

外国人選手が日本チームに加入する場合、また日本選手が外国チームへ移籍する場合の手続き及び選手資格規定について、各規定の資料で報告した。

2. 平成10年度登録について

登録手続資料①登録用紙（6種類9種別、国体一時登録用紙）②登録について（説明書）③登録金取纏及び振込金一覧表④機関誌発送宛先表⑤機関誌贈呈宛先表⑥追加登録（新規・移籍・抹消）届用紙取扱について依頼した。

登録関連の前記資料と「一般L」・「A」「大学」の種別の前年度個人No.を記入した登録名簿を都道府県協会へ送付した。

登録用紙記入欄の改正点

①「高校・高専」の種別について、現住所の記入を削除

②全種別登録用紙に選手25名記入可能

③チームの新規または継続の区分け

④監督、コーチに整理No.（コンピューターに入力のためのもので登録No.ではありません）

⑤生年月日は西暦で記入

3. 質疑応答

（1）登録関連事項

※10年度登録に際してチーム名の変更は新規チームとなりチームNo.は新しくなる。

※年度内の追加登録（移籍・新規）は専用届用紙（高校・高専も同じ）が日本協会が受理した日より有効で、後日正本（必ず協会・会長印を捺印）を送付する条件でFAXでも受理する。

※大学生が当該年度内に実連へ移籍し実業団連盟の大会出場について

実業団連盟の加盟チームの場合の対応について、大学で選手活動としての空白を解消する目的で入社内定者、また就職が決定している人へ門戸を開放することで実業団連盟と学連で協議し出場できるように考慮し、学連を抹消し移籍手続がとれる。

※現在学連に登録している学生は他の連盟には登録できない。学連に登録していない学生は一般A及びリージョナルに登録できる。また勤労学生の登録は本人に任せている。

※高校生の実業団への登録について、学校長の許可があれば登録できる。怪我等の発生した場合、企業で保証するなど、取り決めて実施している。

※中学生の登録について、JOCオリンピックカップの出場に際して日本協会に登録しなければならないとあるが、実際には登録していないことがある。（大会要項を確認、登録が必要）全日本中学校大会は登録しなくても出場できる。

※登録チーム数・登録人口について、都道府県別の9年度登録表を参考に未登録チームの登録促進を依頼、登録人口と競技人口を区分して調べる事が今後の登録促進につながる、特に中学生・小学生・スポーツ少年団の登録が少ない。ハンドボールの実態を把握するためにも協力をお願いした。

※登録金の値上げについて、今後値上げがあれば傘下チームへ主旨徹底のため12月中頃まで県協会へ通達を頂きたい。（執行部へ申し入れる）

※登録用紙について、現行のB4版をA3版に要望（次年度までに検討する）

（2）審判関連事項

※全国大会の開催日の決定について、日程の連絡が遅い、体育館の確保等12月中に決定し通達を頂きたい。（充分理解できるので対応を考える）

※すべての公式記録用紙を日本協会へ送って欲しい依頼があったが、日本協会でどうするのか、なぜ必要なのか明確にして欲しい。全国大会は試合報告の義務があるため、また、審判委員会で大会ごと公式の記録用紙を使っているか、審判に上級受験の際の確認のために報告してもらった。本件については平成9年1月審判合同会議で決定済、各組織に伝達済である。

※チームタイムアウトカードの色について、競技規則には緑色とあるが現品の色と違う。（審判委員長に確認をする）

※審判員について、競技規則集に終身審判資格についてふれていない。（審判委員会に確認する）

（3）その他事項

※全国大会を実施する都道府県協会の担当者と連絡会議を開催の確認について（現段階では会議開催の構想を検討している）

※広告協賛について、都道府県で開催する全国大会の広告協賛について、厳しい現状の報告があり、一企業に多方面から協賛の嘆願があり県協会では一本化した協賛依頼の要望があった（昨今、日本協会で一本化を検討したが、その大会の独自の魅力を打ち出し別途請求している傾向があり難しい、また運営者の立場になると別途企業へ協賛を依頼する、当然のことだと思う）

※第50回全日本総合選手権出場枠について、第49回大会の出場枠より変更した件について、男子16チーム、女子14チームの内、日本協会推薦枠について3月15日の理事会で審議され決定する。

※国体一時登録用紙について、県協会はブロック予選までに日本協会とブロック協会へ同登録用紙を提出しなければならない。選抜チームと単一チームに一人以上の他の選手が入る場合は一時登録が必要になる。

※事務責任者会議の旅費の支給と派遣依頼書について。（旅費については難しいが委嘱状は極力対応する）

次年度第4回事務責任者会議の開催について3月7日（日）にすることを確認して閉会した。

1997年度東京運動記者クラブハンドボール分科会表彰
最優秀選手賞に男子は中山剛選手（湧永製薬）、女子は山口文子選手（オムロン、GK）

恒例となっている東京運動記者クラブハンドボール分科会表彰の1997年度最優秀選手に、男子は日本リーグ優勝の湧永製薬から中山剛選手、女子には同じく日本リーグ優勝のオムロンGKの山口文子選手が選ばれた。

中山選手は、日本リーグを通じてコンスタントな活躍が認められ、日本リーグプレーオフにおいてもベテランの味を発揮し、湧永製薬の優勝に貢献したことが受賞の決め手となり、満票での受賞となった。

山口選手は、これまでワン選手の陰に隠れていたが、日本リーグプレーオフでは、故障で苦しみながらも準決勝、決勝で再三のノーマークシュートをはじくなど逆転優勝に大きく貢献をしたことが評価され、やはり満票での獲得となった。

過去の受賞者は左表の通り。

中山剛（湧永製薬）選手



山口文子（オムロン）選手

贈呈者は東京運動記者クラブ、ハンドボール分科会幹事、谷戸忠司氏

過去の受賞者

回数（年度）	男子最優秀選手	女子最優秀選手
第1回（平成元年）	首藤　信一（大崎電気）	金　玉花（大崎電気）
第2回（平成2年）	玉村　健次（湧永製薬）	伊　秉順（大崎電気）
第3回（平成3年）	橋本　行弘（本田技研）	谷本　泉（北國銀行）
第4回（平成4年）	宇田川竜也（日新製鋼）	比嘉　晴美（オムロン）
第5回（平成5年）	堀田　幸夫（日新製鋼）	該当者なし〈特別賞〉西山　清（日新製鋼）
第6回（平成6年）	呉　龍基（中村荷役）	古田　千明（オムロン）
第7回（平成7年）	井上　耕一（中村荷役）	田村　敬子（オムロン）
第8回（平成8年）	藤井　孝志（大同特殊鋼）	長久　直子（イズミ）

第21回全国高等学校ハンドボール選抜大会を終えて

全国高等学校ハンドボール部　委員長
北岡　大覚



準決勝　大分電波対横浜商工

第21回大会が愛知県体育館をメイン会場として枇杷島S・Cと中村S・Cで開催された。高校生の競技力強化を目的として（日本協会主催大会）第1回全国高等学校ハンドボール選抜大会が昭和53年3月に愛知県名古屋市の愛知県体育館に於いて開催されて以来今回第21回大会を迎え無事素晴らしい感動の好試合の幕を閉じることが出来ました。

大会の準々決勝出場チームのブロック別調査をしてみると、東北（男1）、関東（男2、女1）、東海（女2）、近畿（男2、女3）、中国（男1）、九州（男2、女2）であった。また、準決勝進出ブロックチームは、次の通りである。関東（男1、優勝）、東海（女1、準優勝）、近畿（男1、3位、女3、優勝、3位2）、中国（男1、準優勝）、九州（男1、3位）であった。近畿・九州のチームが上位に入る健闘をみせた。

閉会式では、毎年連続して高校選抜大会を開催して頂いた愛知県にたいして、愛知県協会太田耕治会長、伊藤和夫副会長、角紘昭理事長、愛知県高体連、杉村正一委員長、愛知県・市教育委員会、並びにご協力頂いた関係諸氏に日本協会中澤重夫専務理事より、感謝状の贈呈並びに謝辞が、また全国高体連千野恒夫部長より謝辞が述べられ、大会の幕が閉じられた。「出場チーム数を増やして欲しい」と言う全国高体連の要望にこたえて今まで開催して頂いてきた愛知県を離れ、来年の第22回大会は大阪で男女各36チーム、計72チームの出場校にて、ひとまわり大きくなった選抜大会が開催される運びとなっています。愛知県の皆様本当に長い間ありがとうございました。数年後にまた愛知県での再開催を期待し、ここに今までの御礼と今後のお願いとを申し上げ大会終了報告とします。

男子

■準決勝

〈第1試合〉

岩国工業高（山口）　24（11－11／13－10）21　此花学院高（大阪）

前半、此花No.7佐々木、岩国工No.6田中を中心に加点、11－11で折り返す。後半、岩国工は此花No.7佐々木をマンツーマン、しかし、此花No.10小西のロング、主将No.2大野のポストで加点、ゲームの主導権を握るが、此花の1人退場の間に岩国工1点差に追いつきゲーム白熱、17分過ぎ岩国工3連続ゴールで逆転、そのまま逃げきった。

[此花学院高]				[岩国工業高]			
番号	氏名	得点		得点	氏名	番号	
1	新名	0		0	杉村	1	
2	大野	4		6	佐古	2	
3	西山	0		1	浜重	3	
4	松尾	0		0	宇田	4	
5	田中	0		2	森本	5	
6	石川	0		3	田中	6	
7	佐々木	6		3	藤岡	7	
8	山田	0		3	大森	8	
9	猪妻	3		6	藤長	9	
10	小西	5		0	長井	10	
11	佐々木	0		0	善岡	11	
12	谷	0		0	藤本	12	
13	小林	0		0	生田	13	
14	辻	3		0	風呂迫	14	
		21	計	24			

〈第2試合〉

横浜商工高（神奈川）　25（14－9／11－7）16　大分電波（大分）

[大分電波高]				[横浜商工高]			
番号	氏名	得点		得点	氏名	番号	
1	首藤	0		0	佐藤	1	
2	末松	0		3	林	2	
3	秋吉	1		12	長村	3	
4	新田	0		0	倉島	4	
5	村山	0		3	神田	5	
6	波田	1		0	菅野	6	
7	林	1		0	中谷	7	
8	永野	2		2	山元	8	
9	宮崎	7		0	板垣	9	
10	松本	0		4	飯塚	10	
11	大田	4		0	榎本	11	
12	小野	0		0	田代	12	
13	工藤	0		0	田中	13	
14	山下	0		1	熊田	14	
		16	計	25			

立ち上がり横浜商工3点連取、その間、大分電波に警告が2回、No.9宮崎を中心に得点して追いすがるが、横浜商工はNo.3長村が加点しペースをつかむ。後半も横浜商工ペースでゲームが進む。大分電波は中盤10分近く無得点。終盤No.8永野、No.9宮崎で4連続得点するもとどかなかった。横浜商工のNo.3長村はこの試合12得点。

■決勝

横浜商工高（神奈川）20（11－6 / 9－11）17 岩国工業高（山口）

立ち上がり5分間は3－3で互角、15分までの10分間で試合の主導権が横浜商工に傾いた。5点連取した横浜商工に対して岩国工は無得点、前半終了までの10分間は互角の展開で、中盤の差が11－6と5点差がついた。後半、8分過ぎから岩国工は横浜商工No.3長村をマンツーマン防御、流れを変え10分過ぎから4連続得点、16－13と3点差に詰めよったがその後は差が縮まらず、横浜商工の精力的なスピードある動きが止まらず勝利を握った。

［岩国工業高］ 番号	氏名	得点		［横浜商工高］ 得点	氏名	番号
1	杉村	0		0	佐藤	1
2	佐古	3		4	林	2
3	浜重	0		10	長村	3
4	守田	0		3	倉持	4
5	森本	4		2	神田	5
6	田中	3		0	管野	6
7	藤岡	4		0	中谷	7
8	大森	2		0	山元	8
9	藤長	1		0	板垣	9
10	長井	0		1	飯塚	10
11	善岡	0		0	榎本	11
12	藤本	0		0	田代	12
13	生田	0		0	田中	13
14	風呂迫	0		0	熊田	14
		17	計	20		

優勝手記

横浜商工高ハンドボール部主将　林　幹夫

3月28日、僕達横浜商工ハンドボール部は選抜大会で5度目の優勝を成し遂げた。振り返れば自分達の代になってから、夏の合宿、冬の合宿、元旦からも練習を始めた。そして、3月24日の選抜大会まで渡辺先生のもとで日本一になる為の練習をしてきた。

僕はキャプテンとしてチームをまとめなければならない立場となり、今までとは、二倍も三倍も大変な思いをした。なかなか先輩達のようなプレーができず、先生には、「おまえら30年間で最低のチームだ」と言われ続けた。ビデオで研究しても、やるとなるとできない。逆にどんどん駄目になっているような気がした。大学との練習試合も何回もした。その中で少しずつ課題が見えてきて、それを何とかしようと頑張ってきた。大会が近づくにつれて、チームが団結し心が優勝という目標に向かって一つになった。

3月24日、選抜大会が始まった。初戦の相手は手ごわい興南。最終試合でもあり、緊張感もピークだった。どうしても試合がスムーズに流れない。明日につなぐ為には絶対に勝たねばならない。点差がどうしても開かなかった。そして、自分達の甘さを知り負けの恐ろしさを味わった。苦しく本当に長い試合だった。終了の笛を聞いて涙が止まらなかった。この試合で自分達に勢いが生まれた。DFには自信があった。それと速攻・セットで決勝戦まで勝ち進んだ。負ける気がしなかった。全員が優勝を確信していた。全員が一つにまとまった強さを改めて知った。キャプテンとして、渡辺先生・井上先生・部員全員に、「ありがとうございました」と言いたい。先生に、「おまえら本当にすごいよ」と言われた時、男泣きができた。そして、ようやく一つの山の頂上に立った。しかし他に大きな山が二つある。その山の頂上に立つ為にまた一から始め渡辺先生のもと日本一になるための練習をしていこう。後悔する試合はしたくない。目指せ三冠！横浜商工ハンドボール部。

女子

■準決勝

〈第1試合〉

名古屋短大付高（愛知）18（10－9 / 8－7）16 夙川学院高（兵庫）

立ち上がり夙川3－1とリード、5分から15分の間の名短4連続得点に対し夙川無得点で名短5－3とリード、その後一進一退、終了直前名短No.8岡田の得点、1点リードで後半へ。夙川GK宮永の攻守によりペースをつかみ19分に16－16と同点に追いつくが最後の5分間の攻防に名短2得点、夙川無得点が勝敗を分けた。名短後半にNo.6藤田（183cm）をポストで起用、5得点を挙げ名短の勝利に貢献した。

［名古屋短期大学付属高］ 番号	氏名	得点		［夙川学院高］ 得点	氏名	番号
1	佐藤	0		0	宮永	1
2	宮本	1		0	前畑	2
4	石森	1		5	中村	3
5	板倉	3		1	三浦	4
6	藤田	5		4	太田	5
7	足立	1		0	畑	6
8	岡田	6		0	森井	7
9	橋本	0		6	阿江	8
10	楠	1		0	野田	9
11	笹野	0		0	山城	10
12	大野	0		0	細木	11
13	松沢	0		0	西林	12
				0	鍛治	13
				0	藤谷	14
		18	計	16		

優勝した洛北高校

〈第2試合〉

府立洛北高（京都）　11（7－5 / 4－4）9　四天王寺高（大阪）

[京都府立洛北高] 番号	氏名	得点	[四天王寺高] 得点	氏名	番号
1	森下	0	0	瀧	1
2	興梠	0	4	高橋	2
3	船本	5	0	島田	3
4	高野	1	5	菅野	4
5	堀田	0	0	津賀	5
6	西村	0	0	中川	6
7	鎌多	0	0	久川	7
8	岡山	1	0	石山	9
9	大西	4	0	大前	10
10	小椎八重	0	0	田中	11
12	藤澤	0	0	田代	12
13	松岡	0	0	永田	13
16	堤	0	0	吉田	14
		11	計 9		

前半、立ち上がり1－1、5分過ぎでは、両チームのロングで加点3－3、その後10分間両チーム無得点、四天王寺No.2高橋が決めると、洛北No.9大西で点差を広げ7－5で後半へ。四天王寺No.4菅野のロングシュートで追撃するが、洛北No.3船本を使ったコンビプレーで船本5点目、四天王寺フリースローフォーメーションで対抗するが前半の点差が追いつかなかった。

■決勝

府立洛北高（京都）　14（7－7 / 7－5）12　名古屋短大付高（愛知）

[名古屋短期大学付属高] 番号	氏名	得点	[京都府立洛北高] 得点	氏名	番号
1	佐藤	0	0	森下	1
2	宮本	3	1	興梠	2
4	石森	1	5	船本	3
5	板倉	0	1	高野	4
6	藤田	1	0	堀田	5
7	足立	1	0	西村	6
8	岡田	6	0	鎌多	7
9	橋本	0	2	岡山	8
10	楠	0	5	大西	9
11	笹野	0	0	小椎八重	10
12	大野	0	0	堀内	11
13	松沢	0	0	藤澤	12
			0	松岡	13
			0	堤	16
		12	計 14		

前半両チーム緊張がほぐれずミスを連発、名短No.8岡田、洛北No.3船本で1－1、洛北No.8岡山、No.9大西で10分過ぎ4－1でペースをつかむも前半7－7の同点、後半、残り5分まで一進一退、残り5分間の攻防で2－0の洛北が勝利を握る。

優勝手記

京都府立洛北高等学校ハンドボール部監督　楠本　繁生

21回目の全国選抜大会で初優勝を飾れたことに大きな喜びを感じる反面、次大会への課題が多く残されたように思います。

なみはや国体終了直後、新チームのスタートとともに京都府予選が始まり、何とか勝ち得たものの、近畿予選では力不足が結果にも顕著にあらわれ、本大会にむけて何をすべきか頭を悩ます日々が続きました。しかし、結局到達した結論というのは、パス・キャッチという初歩的、基本的な技術を徹底して身につけ、いかに「ミスのないゲーム運び」をするか、ということで、この目標に100％近づくため、とにかく一つの練習を何度も何度も反復練習しました。それを更に速い状況変化の中でも自然にやりこなせるよう、実践練習として、大学生の胸を借りて練習ゲームも取り入れていきました。「優勝」という輝かしい栄光を得られたということは、今回この練習の積み重ねが結果的に肯定されるのではないかと思います。

「一試合でも多く」を合言葉に名古屋入りし、先のことはまったく考えず、その日・その試合・その時に全力を尽くすということを念頭に、一戦一戦を闘っていきました。勝ち進むにつれ、チームの団結がより強まり、必要以上の緊張感が逆に取り払われていっていたようにも思われます。

すでに夏にむけてのスタートは切られています。残された課題を認識、分析し、引き続き栄光を勝ち取るため頑張りたいと思います。

最後になりましたが、今大会の運営にご尽力頂きました関係各位の皆様に、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

洛北高等学校ハンドボール部主将　西村　奈津美

今回全国高等学校選抜大会で優勝させていただくことができたのは、ともに練習をし、励まし、支えてくださった先輩方、学校関係者の皆様のおかげだと思います。

昨年のチームは国体に出場され、日本一を勝ち取られました。そのこともあり、新チーム結成が遅れ、他のチームと比べても遅れた段階でのスタートでした。ポジションもなかなか決定せず、大会二週間前にようやく決まり、チーム未完成のまま、大会へ向かうことになりました。このようなチーム状況で自分たちが目標としていたことは、ただ勝つことではなく、練習で学んだことを発揮することでした。準々決勝まではできるだけ失点を抑え、速攻で得点することに課題をおいて戦いました。準決勝・決勝では、勝ち上がるにつれての勢いやまとまりが発揮され、その結果優勝することができましたが、この大会での経験を生かし、夏のインターハイに向けて取り組んでいきたいです。最後になりましたが今大会に出場するにあたり、御尽力頂いた関係者及び、応援していただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第21回全国高校選抜大会

《男子》

1回戦

チーム	得点	内訳	得点	チーム
北陸高校(福井)	21	9-14 / 12-9	23	長崎日大高校(長崎)
県立四日市工業高校(三重)	24	14-10 / 10-12	22	県立松山北高校(愛媛)
県立伊奈高校(茨城)	21	11-5 / 10-4	9	尾道高校(広島)
県立羽後高校(秋田)	16	7-16 / 9-14	30	此花学院高校(大阪)
拓殖大学第一高校(東京)	18	10-11 / 8-8	19	府立北嵯峨高校(京都)
釧路江南高校(北海道)	18	9-23 / 9-17	40	県立不来方高校(岩手)
市川高校(千葉)	23	12-16 / 11-13	29	県立岩国工業高校(山口)
東海高校(愛知)	19	6-10 / 13-7	17	熊本国府高校(熊本)
大分電波高校(大分)	31	16-3 / 15-7	10	県立紀北農芸高校(和歌山)
県立香川中央高校(香川)	20	11-9 / 9-9	18	駿台甲府高校(山梨)
岡崎城西高校(愛知)	22	9-9 / 13-6	15	県立総社高校(岡山)
函館工業高校(北海道)	17	8-12 / 9-10	22	浦和学院高校(埼玉)
県立富岡高校(群馬)	20	1-3 / 1-3 / 11-11 / 7-7	24	県立添上高校(奈良)
学校法人石川高校(福島)	20	12-7 / 8-5	12	岐阜市立岐阜商業高校(岐阜)
県立明石高校(兵庫)	17	9-12 / 8-13	25	県立氷見高校(富山)
興南高校(沖縄)	18	8-7 / 10-12	19	横浜商工高校(神奈川)

2回戦

得点	内訳	得点
28	16-10 / 12-11	21
13	7-13 / 6-12	25
19	9-7 / 10-11	18
25	7-5 / 18-7	12
18	10-10 / 8-7	17
17	8-12 / 9-8	20
16	6-14 / 10-15	29
13	7-10 / 6-11	21

準々決勝

得点	内訳	得点
21	10-12 / 11-15	27
14	10-9 / 4-8	17
26	10-11 / 16-6	17
18	12-17 / 6-15	32

準決勝

得点	内訳	得点
21	10-13 / 11-11	24
16	7-11 / 9-14	21

決勝

得点	内訳	得点
17	11-9 / 6-11	20

第21回全国高校選抜大会

《女子》

1回戦（左ブロック）

- 名古屋短期大学付属高校(愛知) 25（16-1, 9-9）10 初芝橋本高校(和歌山)
- 県立横浜日野高校(神奈川) 7（2-9, 5-8）17 県立小松商業高校(石川)
- 埼玉栄高校(埼玉) 17（6-13, 11-11）24 熊本国府高校(熊本)
- 県立岩国商業高校(山口) 21（11-11, 10-5）16 守山市立守山女子高校(滋賀)
- 県立盛岡第二高校(岩手) 23（13-11, 10-5）16 清水市立商業高校(静岡)
- 県立麻生高校(茨城) 19（7-16, 12-21）37 県立大分鶴崎高校(大分)
- 札幌月寒高校(北海道) 11（5-13, 6-14）27 県立富岡東高校(群馬)
- 県立岡豊高校(高知) 11（4-18, 7-9）27 夙川学院高校(兵庫)

2回戦（左ブロック）

- 12（7-2, 5-9）11
- 24（12-7, 12-5）12
- 20（11-12, 9-16）28
- 8（4-12, 4-13）25

3回戦（左ブロック）

- 19（13-5, 6-12）17
- 19（11-9, 8-11）20

準決勝（左ブロック）

- 18（8-7, 10-9）16

1回戦（右ブロック）

- 暁高校(三重) 13（6-9, 7-5）14 県立鹿児島南高校(鹿児島)
- 県立香川中央高校(香川) 10（7-11, 3-9）20 府立洛北高校(京都)
- 県立北村山高校(山形) 7（4-14, 3-12）26 昭和学院高校(千葉)
- 県立倉敷中央高校(岡山) 15（8-6, 7-6）12 釧路湖陵高校(北海道)
- 東海女子高校(愛知) 17（7-4, 10-5）9 山陽女子高校(広島)
- 県立福井商業高校(福井) 15（8-5, 7-4）9 県立栃木女子高校(栃木)
- 文化女子大学附属杉並高校(東京) 15（7-14, 8-5）19 県立郡山女子高校(福島)
- 県立浦添高校(沖縄) 15（7-13, 8-11）24 四天王寺高校(大阪)

2回戦（右ブロック）

- 11（6-12, 5-12）24
- 26（12-3, 14-4）7
- 18（8-8, 10-8）16
- 12（8-12, 4-10）22

3回戦（右ブロック）

- 20（11-6, 9-7）13
- 15（7-6, 8-12）18

準決勝（右ブロック）

- 11（4-4, 7-5）9

決勝

- 12（5-7, 7-7）14

98年度全日本男子選手名簿

監　督	蒲生　晴明　がもう　せいめい	1954. 4. 5	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	酒巻　清治　さかまき　きよはる	1962. 5. 7	湧永製薬(株)
コーチ	スタニスフ・コワルスキー		スウェーデン

選手	氏　名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身高校	出身大学	出身地
GK	橋本　行弘	はしもと　ゆきひろ	本田技研	1965. 9.17	185	91	岡崎城西高	—	愛知県
	四方　篤	しかた　あつし	本田技研	1972. 5.12	190	97	北陽高校	大体大	大阪府
	坪根　敏宏	つぼね　としひろ	湧永製薬	1973. 6. 4	187	85	久留米工大付高	福岡大	福岡県
	日原　一幸	ひはら　かずゆき	大同特殊鋼	1973. 7.20	181	87	桜台高	名城大	愛知県
CP	森本　彰宏	もりもと　あきひろ	大崎電気	1970.12.23	180	85	北陽高校	大体大	大阪府
	佐々木教裕	ささき　のりひろ	本田技研	1974. 4. 8	190	97	拓大第一	日体大	東京都
	冨本　栄次	とみもと　えいじ	大同特殊鋼	1971.10.18	182	87	日体荏原	日体大	神奈川
	中山　剛	なかやま　つよし	湧永製薬	1969. 7. 4	190	92	久留米工大属高	福岡大	福岡県
	木浪　達文	きなみ　たつふみ	中村荷役	1971.10.30	188	96	青森商業高	国士舘大	青森県
	末岡　政広	すえおか　まさひろ	大同特殊鋼	1967. 9. 1	177	85	瓊浦高	福岡大	長崎県
	藤井　孝志	ふじい　たかし	大同特殊鋼	1969. 7.27	188	95	高岡向陵高	筑波大	富山県
	杉山　裕一	すぎやま　ゆういち	湧永製薬	1972. 9.21	190	98	岐阜商業高	—	岐阜県
	茅場　清	かやば　きよし	本田技研	1973. 7. 8	185	85	笠間高校	日体大	茨城県
	山口　修	やまぐち　おさむ	湧永製薬	1972. 2.28	190	97	西宮南高	大体大	兵庫県
	辻　昇一	つじ　しょういち	大崎電気	1973. 5.10	183	75	学法石川高	日体大	福島県
	水谷　和嘉	みずたに　かずよし	日新製鋼	1972. 2. 2	183	80	桑名西高	名城大	三重県
	森山　透	もりやま　とおる	湧永製薬	1974. 8. 6	172	70	熊本市商高	日体大	熊本県
	池辺　健二	いけべ　けんじ	本田技研	1974. 9.19	192	97	久留米工大付高	大体大	福岡県
	清水　祥二	しみず　しょうじ	トヨタ車体	1974. 6.21	184	89	桂高	大体大	京都府
	田場　裕也	たば　ゆうや	湧永製薬	1975. 9.12	182	81	興南高校	日体大	沖縄県
	広政　宜孝	ひろまさ　よしたか	本田技研	1973. 7. 6	178	75	下松工高	筑波大	山口県
	斎藤　泰貴	さいとう　やすたか	本田技研	1974.12.11	186	85	清水市商	中京大	静岡県

男子ナショナルチーム欧州遠征スケジュール

期間　5月8日～6月2日

アイスランド　5月8日～5月13日

アイスランドナショナルチーム・クラブチームと親善試合

スイス　5月14日～5月17日

男子4ヶ国大会（スイス・ユーゴスラビア・ギリシャ・日本）

フランス　5月18日～5月26日

第12回パリトーナメント（フランス・ドイツ・チュニジア・日本）

イタリア　5月27日～6月1日

男子欧州選手権大会視察

98年度全日本女子選手名簿

監　督	伊藤　宏幸　いとう　ひろゆき	1951.12. 1	㈱日立製作冷熱事業部
コーチ	黄　慶泳　ふぁん　きょんよん	1969. 2.28	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	荷川取義浩　にかわどり　よしひろ	1961.12. 4	㈱北国銀行

選手	氏　名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身高校	出身大学	出身地
GK	遠藤ひろみ	えんどう　ひろみ	シャトレーゼ	1974. 6. 8	169	63	北村山高	東女体	山形県
	沖園　美穂	おきぞの　みほ	北国銀行	1974. 7. 8	167	62	福井商高	—	福井県
	山口　文子	やまぐち　あやこ	オムロン	1975.10.22	173	67	境高校	—	鳥取県
	山下美智子	やました　みちこ	大和銀行	1976. 1. 5	177	68	宣真高校	—	熊本県
CP	青戸あかね	あおと　あかね	イズミ	1974. 7.11	164	62	山陽女高	東女体	広島県
	広瀬　輝美	ひろせ　てるみ	〃	1975. 8.11	166	58	本庄高校	福岡大	宮崎県
	佐久川ひとみ	さくがわ　ひとみ	大崎電気	1977. 7.21	161	61	浦添高校	—	沖縄県
	小林　直美	こばやし　なおみ	香川銀行	1973. 9.12	163	53	九州女高	福岡大	福岡県
	熊谷　祐子	くまがい　ゆうこ	シャトレーゼ	1976. 2.20	165	59	大曲農高	—	秋田県
	稲吉　希穂	いなよし　きほ	〃	1977. 9.28	161	60	水海道二高	—	茨城県
	池田奈美子	いけだ　なみこ	ジャスコ	1975.11.12	163	60	小松商高	—	石川県
	浦田　万紀	うらた　まき	〃	1976. 8.18	171	65	洛北高校	—	京都府
	松永恵美子	まつなが　えみこ	〃	1977. 1.22	164	59	小松商高	—	石川県
	田中美音子	たなか　みねこ	大和銀行	1975. 1.14	160	55	四天王寺高	—	大阪府
	倉知　光子	くらち　みつこ	〃	1975.11.12	167	58	宣真高校	東女体	大阪府
	藤浦　美絵	ふじうら　みえ	〃	1975.12.19	171	70	夙川学院高	—	兵庫県
	山下　麗子	やました　れいこ	〃	1977.10. 5	170	67	大谷高校	—	大阪府
	山崎　理恵	やまざき　りえ	立山アルミ	1977.11. 4	157	57	福島女高	—	福井県
	松本　恵美	まつもと　えみ	日立栃木	1973. 7. 6	172	70	国学院栃木	—	栃木県
	沖土居真子	おきどい　まさこ	〃	1971. 6.19	155	48	春日井高	日体大	愛知県
	小松真理子	こまつ　まりこ	北国銀行	1974.11.30	155	55	小松商高	—	石川県
	田中由美子	たなか　ゆみこ	〃	1975. 7.25	176	68	〃	—	石川県
	上出恵美子	かみで　えみこ	〃	1973. 5.17	168	60	〃	—	石川県
	田中美代子	たなか　みよこ	〃	1975. 1.19	167	67	〃	—	石川県
	中村　友美	なかむら　ともみ	〃	1977. 6.23	168	60	福井商高	—	石川県

女子ナショナルチーム行事予定

5月17日～5月24日　強化合宿　名古屋プラザー工業体育館

5月26日～5月25日　欧州遠征

チェコ、スロバキア、オーストリア、ハンガリー

全日本女子チームの選手にとって試合経験を重ねていくことが大事だと思われる為、多くのナショナルチームがクラブチームと試合を実施。午前中はトレーニングを予定に入れ強化を図る。

6月15日～6月21日　強化合宿　埼玉県

男子ジュニア韓国強化遠征＆直前合宿

全日本男子Jr.韓国遠征選手名簿

平成10年2月12日～19日

スタッフ			
	監　督	高橋　精一	桃山学院高等学校
	〃	玉村　健次	湧永製薬㈱
	〃	松　喜美夫	函館大学
	ドクター	島田　信弘	相模原共同病院

選手	氏　名	所属名	身長	体重	生年月日	出身校	出身地
GK	高木　尚	日本体育大学	189	78	1978.4.7	北陸高	福井県
	松岡　厚志	熊本市立商	185	76	1979.4.22	松橋中	熊本県
CP	田野平安行	大崎電気	175	65	1978.8.31	函館有斗	北海道
	山口　航	桃山学院大学	177	70	1978.6.11	明石高校	大阪府
	沢田　俊祐	国士舘大学	180	75	1979.3.29	明星高	東京都
	窪小谷貴浩	日本体育大学	195	95	1978.8.7	学法石川	福島県
	小倉　学	〃	190	85	1978.6.27	霞ヶ浦高	茨城県
	石川　博之	大阪体育大学	173	63	1978.5.16	此花学院	大阪府
	太田　芳文	伊奈高校	187	81	1979.12.28	千代田中	茨城県
	前田　誠一	浦和学院	183	74	1979.5.3	本室蘭	北海道
	筆吉　亮介	北陸高校	182	67	1980.1.13	凌雲中	北海道
	長尾　恒宏	北嵯峨高校	186	70	1979.4.5	亀岡中	京都府
	田中　秀樹	久留米付高校	191	80	1979.8.5	上峰中	福岡県
	畠中　益喜	〃	186	72	1979.4.13	友泉中	福岡県
	柳本　義文	〃	182	72	1980.1.10	三田中	福岡県
	濱口　朋幸	瓊浦高校	180	67	1979.7.17	日吉中	長崎県
	岡本　敏明	岩国工高校	183	77	1979.6.3	美川中	山口県
	川西　優作	高岡向陵高	175	65	1979.4.30	呉羽中	富山県
	神田　李佳	横浜商工	183	65	1980.11.17	大島中	東京都
	佐々木　優	此花学院高	182	72	1980.8.14	高南中	大阪府

期間　平成10年2月12日（木）～平成10年2月19日（木）（7泊8日）

場所　韓国（圓光大学）直前合宿（大和銀行　桃山台体育館）

目的　8月にバーレーンで行われる第6回男子Jrアジア選手権兼Jr世界選手権アジア予選での上位入賞を目指し強化の一環として韓国遠征及び直前合宿を行う。

成果

今年の韓国強化遠征は、スタッフの予想した以上に選手達は、充実したトレーニングを行う事が出来た。

特に韓国の学生界も現在シーズン前でハードなトレーニングを行っていてフットワーク、サーキットトレーニング、ジャンプトレーニング等、色々なメニューを圓光大学の金監督から直接指導をしてもらい以前の通訳が入っての指導より、より一層韓国式のトレーニングを積極的に取り組む事が出来た。

■試合結果

2月16日
圓光大学41（21－12／20－18）30全日本Jr

2月17日
全日本Jr36（17－18／19－17）35圓光大学

2月18日
圓光大学35（18－8／17－13）21全日本Jr

■対戦成績　1勝2敗

■今後の課題

今後の課題として2点挙げてみました。

先ず1点目は、OF面での韓国のプレーを取り入れていくことです。フットワーク、フェイントプレー等は、世界でも十分通用すると思われるので前回の予選の敗因でもある1対1の弱さを克服できると思います。そして2点目は、DF面の強化です。新ルールになり得点チャンスが多くなる傾向になっていますが新ルールに対応できるDF作りが早急に必要と感じました。また、韓国のDFとは違う世界に通用するDF作り特に、1対1、2対2の強化に取り組んで行きたいし、色々な、ディフェンス作りにも積極的に取り組んで行きたいし、併せて体力強化も行いたいと思っています。

最後に、今後の予定として、5月末に強化合宿を予定していますが8月の予選は、開催国のカタールを除いた国で争う為チャンスはあると思います。今の現状を見てもあと1～2回許される期間内で強化合宿を実施したいとスタッフ一堂考えていますのでよろしくお願いします。

以上

責任者　高橋　精一・松　喜美夫・玉村　健次

「ハンドボールへの愛は世界共通」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw フリースロー

オーストラリアに出掛けるチャンスに恵まれた。すべてを明かせば、サッカーＪリーグチームのキャンプ同行だった。ワールドカップ（W杯）出場を決めた日本代表をはじめＵ－17、Ｊリーグのチームなどが今年は相次いでオーストラリアでキャンプを張り、現地の人の言葉を借りれば「ちょっとした日本サッカーブーム」ということで、新聞も連日のように日本の話題を掲載していたほどだ。

実質９日間という短い滞在だったが、ある日、ホテルのロビーで思いがけない喜びの出会いがあった。目の前に現れたのは、ハンドボール愛好者という25歳の青年だった。

なにせ英語が達者でないだけに、理解しあうのは容易でなく、身振り手振りを交えての会話は大変だったが…。

彼との出会いは実に偶然としか言いようがない。ホテルのロビーでコーヒーを飲みながら、日本から持っていったハンドボール雑誌に目を通している姿を見て「熊本の世界選手権成功おめでとう」と声を掛けてきたのだった。

そして「自分はハンドボールが好きだが、なかなかプレーする機会に恵まれない」と言い「オーストラリアはフットボール、クリケット、サッカー、バスケットボールなどのスポーツが盛んで、ハンドボールはプレーヤーも少ないし、寂しいスポーツ。大変悲しいことだ」と、大きなゼスチュアを交えながら訴えた。

そういえばオーストラリアは過去、世界選手権、オリンピックのビッグイベントに出場した実績がない。先の世界選手権予選でもニュージーランドには勝ったものの、リトアニアに敗れ、あと一歩で出場権を逃した。

「一度でいいからオージーパワーを見せて世界のステージに上がってもらいたい」とW杯出場が日本サッカー界の悲願だったようにこの青年はオーストラリア・ハンドボールの大ブレイクを心から願っているようだった。だが「2000年のオリンピックが地元シドニーであるので、ここではいい試合をしてくれると思うよ」と、オーストラリアン・パワーに期待を寄せていた。

別れ際に「オーストラリアのハンドボールが盛んになるよう祈っているよ」と、メッセージを送ると、彼は「オーストラリアと日本が交流できればいいね」と、大きな手を差しのべてきた。ハンドボールへの熱い愛は世界共通だ－と、改めて思い知ったオーストラリアでの素敵な出会いだった。

連載

レフェリングの事例集

元IHFレクチャー　光嶋　磯雄

事例15【不十分な観察】

シュートされたボールが、ゴール横うしろ側のネットの隙間からゴールに入った状態になってしまった。CRもGRも視覚視野が死角になっていたのか、又は不注意であったのかは別として、両レフェリーともこれに気付かずGKやチームベンチはノーゴールだと叫ぶ。GKは判定を下せず、CRも助言できないという有様となり、結局はGRがゴールインと認定してしまった。この両人が、記録席や控えレフェリーに意見を求めなかったのが、このようなビッグエラーとなったが、確実に記録席とコンタクトをとってさえいれば、問題はもっとスムースに結論が出たものと思われる。IHFの大会では、全体の目付の役割をする人が立ち合うのはそのためでもある。GRとしての観察は、シューターのラインクロス（ボールと足の着地を含めて）とボールのゴールライン通過の瞬間を見極めなければならないので、重要で難度の高い仕事といえる。ゴールポストの真横に立たずに少し離れてアウターゴールラインの外から上体を前傾してゴールを観察すると効果的である。

（ベンチ規定8の後半）

事例16【威信を示すこと】

コーチの態度が非常識である時は、特にルール規定を適切に活用すべきである。レフェリーは責任を持って18：14とIHF解説13の内容を最大限効果的に活用すれば、早期に正常化する。レフェリーの判定に従わなければ、コーチは失格につながる（17：1d，17：5c，17：11)。レフェリーは伝家の宝刀「試合の中断・中止」も有り得るというところまで踏み込んで、威信を示し、決して時間をかけてはならない。声が大きく、アクションが大きい個性をぶっつけて来るコーチに屈伏してはならない。模範的レフェリーはおおむね懇切丁寧であっても、時には、勇気果断で冷厳一徹な面も持ち合わせねばならない。

（18：14）

事例17【計時係の責任】

後半の残り30秒をきる時となって反則があり、両レフェリーは何らかの協議をして、両チームのキャプテンを呼んで何かを伝えた。問題はこの時タイムアウトの合図P，P，Pを吹いていなかったことである。おまけに計時係は気を利かしたつもりでか、時計の進行を止めてしまった。計時係の越権行為であるが、臨機の処置としてレフェリーに声をかけるべきではなかったか！パートナーレフェリーにも一半の責任がある。

事例18【審判長としては】

後半終了近くになって、シュートされたボールがゴール後方へ飛んでいった。Aチームのコーチは、タイムアウトを要求したがレフェリーはこれに答えなかった。試合終了後、このコーチは審判長に苦情を述べたところ、審判長は「レフェリーに指導しておく」と答えた。このことは当該レフェリーの心境に少なからぬ影響を及ぼしたとのこと。レフェリーが、タイムアウトをとらなかったのは、前半からの基準に従ったまででコーチやプレイヤーがそれを求める発言は、ルールに認められないことは明らかなので（4：1終わりの文）、審判長はこの条項を引用してコーチの苦情に反論してほしかったということである。審判長はチームやコーチに対して安易にレフェリーの非を認めないほうが良い。この件を2：4，IHF解説1a～nをもとにして考えることは、決して間違っていない。

事例19【極めてめずらしい出来事である】

終了15秒前同点の試合で、Aチームのシュートが GKにより跳ね返されてボールはゴールエリアライン方向へ転がっている。シュートの直後、GRはうっかりしてか笛を口から落としてしまい、その時笛の音が鳴ってしまった。CRはそれに気付かず跳ね返ったボールをとってBチームが速攻を始めたため、逆方向に走り、引き続いてシュートが成功したので得点を認めてその後試合終了となった。ベンチからアピールが出されたが取り上げられなかった。元来、プレイヤーは笛の音によっての判断・行動を基礎・習慣としているため、たとえ音が小さくても耳に入ったならば、今の音は何か？試合中断のはずだ！と理解してしまえば、精神的・身体的緊張は一時中断するのは当然である。時間の余裕があって4：1終わりの文、18：13終りの文にあるチーム代表者の質問権によるアピールがあれば、レフェリーは直ちに時計を止めて（2：4）パートナーレフェリーと協議して、笛の音が実際に影響を与えたと認めれば（うっかり・ポロリと落としたは問題ではない）、レフェリーのエラーとして謝るしかないであろう。これを認めないであれば、次はスローオフ、認めるのであればセンターライン中央でのレフェリースローによって再開となる（9：2，10：2，15：1C)。笛を口にくわえたままのレフェリーには、この種の失敗が予想される。ハンドボールのレフェリーは試合観察中、笛をくわえっぱなしにしないことが、不文律となっている。

事例20【レフェリーの主体性】

レフェリーがAチームのベンチの前にいる時、Aチームプレイヤーの不正交代が発生した。このレフェリーは明らかにそれを目撃していたにもかかわらず、笛を吹かなかった。試合終了後別のレフェリーがこのことについて尋ねたところ、このレフェリー氏いわく「不正交代は記録席から通報されることになっており、それがなかったから吹かなかったのだ」とのこと。プレイヤーのコート出入り・交替は記録・計時係が担当管理することは19：2で決められている

が、同時に18：2、6では、あくまでもレフェリーが主体性を持つことが定められているから、直接視認した出来事には、責任を持って直ちに処置しなければならない。（4：5・6、3：1a，18：2・6、19：2）

事例21【威信を示すこと】

試合が残り時間僅かとなって、Aチームがリードされている時、Aチームのコーチは相手チームの攻撃のテンポが遅いことにこだわってか、立ち上がって両腕をさしあげて自分の時計を叩く仕草を示したので、レフェリーは試合を止めてこのコーチに警告した、試合終了後、コーチがレフェリーの所にきて言うには「私はあの時、何も言葉に出していないから構わないのではないか」とのこと。これは明らかにコーチのルール知識の不十分を示した言葉である。

17：1d、ベンチ規定5には、挑発・催促・抗議の意味を含んで言葉・動作などの手段でチーム役員やプレイヤーが、レフェリー・競技役員の邪魔をしたり、侮辱的行為をしてはならないとある。今回の改正では、今後チーム役員は交替地域の範囲内でならば動き回っても良いこととなった。（ベンチ規定5）

事例22【コート外使用について】

サイド攻撃プレイヤーが、コートサイドのサイドラインから一旦外へ出たのち、コート内に走りこんでくることを繰り返すので、レフェリーは、そのプレイヤーをコート外不正出入りとして相手チームのフリースローとした。するとそのプレイヤーは「どうしてか？ボールは中にあるし、プレイヤーは一旦外に出てもすぐに戻ればいいではないか！」と不満を述べた。

4：4註はボールをプレイしたあと、たまたま身体がコート外に出た時のことを言うのであって、プレイの予備行動としてコート外地域を攻撃のための助走・加速を意図して使用することは違反である。昔、コーナー付近でパスをしたあと、ゴールポストの後側走って反対側のサイドへ回るということをした者もいたが、まさに論外の沙汰である。

事例23【コート外使用について】

シュートされたボールがゴール後方へそれた。試合は終りに近付き1点リードされているチームのGKは、大急ぎでボールをとりにいき、コートに戻る時、味方のプレイヤーが相手のゴールエリア前でノーマークになろうとしているのを見て、GKはゴールエリア外からパスアウトのボールを送ったが、両レフェリーともこれに気付いていない。パスは成功し得点となった。この成り行きに相手チームが気付けば、いちはやくチーム代表者に告げてレフェリーにこのコート外使用を調べてもらうしかない。この処置が遅れて次のスローオフが実施されてしまえばこのアピールは無効となる。（9：2）

レフェリーの確認しなかったルール違反（コート外不正使用）でアピールがあった場合、レフェリーは記録係問い合せた上で、もしこれが事実ならば得点は取り消しである。両チームに対しては、事情を説明して、注意義務不十分を謝ったほうが良い。いずれにしてもあまり気持ちの良いものではないことは確実である。レフェリーは、片時もボールから眼を離してはならないことの見本である。

事例24【不徹底な観察】

レフェリーがプレイヤーに退場を命じた後、メモをとることに気をとられて、そのプレイヤーがゆっくりと歩いて交替地域に向かっていることに気付かず、そのまま次のスローによる再開の笛を吹いてしまうことがある。これで実害のおこることはまず考えられないにしても、レフェリーの観察ミスの1つであり、良く確認してから笛を吹くようにする。

事例25【レフェリー相互の打ち合わせについて】

これはトラブル事例ではないが、両レフェリーが、何らかの理由で協議・打ち合わせなどする時。話し合っている所へプレイヤーが近付いて来て、盗み聞きとか質問をしたりする状態になることがある。話の内容を聞かれないように、近付くプレイヤーを制止するか、聞かれない場所でするのが良い。（たとえば、コート中央など）

事例26【スロー実施位置のあやまち】

Aチームがゴールエリア前でシュートしたが、ラインクロスだったのでBチームのフリースローである。しかしそのシュートされたボールはゴールポストに当たって跳ね返り、センターライン方向へ転がった。Bチームプレイヤーは、そのボールを拾って既にスタートしていた味方にパスを送り速攻に成功した。これに気付いたAチームプレイヤーは、「スロー位置が違う」といった。フリースローは反則の起こった位置から行なうべきなのに、ボールの転がりが自チームに有利な方向に偏ったため、Bチームはこれ幸いと（悪く言うと火事泥）ばかりに速攻に結び付けようとしたのであり、両レフェリーは、ボールの動きに気をとられていて13：2を忘れたのである。レフェリーがすぐに気付けば、スローは正しい位置からやりなおしとなる。スローインの場合も同じである。

事例27【誤判定と質問提起の時機】

事例1と類外のものである。Aチームプレイヤーが、Bチームゴールエリア前での防御をしのいでシュートした時、GRは、防御側に対人反則があったとして笛を吹いた直後、シューターの手を離れていたボールは笛の音に僅かに遅れてゴールに入ってしまったので、GRはもう一声笛の音を継ぎ足してゴールインにしてしまった。Bチームベンチは不信の念を抱き、キャプテンを呼び寄せて事情を聞いているうちに、それに気付かないBチームプレイヤーが、ボールを持ってセンターラインにならんだので、CRはスローオフの笛を吹いた。チーム責任者は、次の中断時に改めて質問したので、レフェリーはタイムアウトをとって協議しこの件は9：2の規定によりアピールは成立しない、ゴールインの取り消しも出来ないことを説明した後再開したがここにはレフェリーの吹笛エラーがもとになったことと、時機を失した質問提起という二つの問題がある。GRが吹いた継ぎ足し笛（ピーと吹いてからピーと吹く）にCRが気付かなかったことも二次的原因といえる。ついでに記しておくと、この後両レフェリーは精神的安定を崩してしまって吹笛と判定に動揺が起こり、第三者にもBチームが有利に吹かれることが目立ったとのことである。

競技規則改正に伴う研修会

審判委員会　斉藤　実

前回の機関誌に報告いたしました「トップレフェリー研修会」に実業団チームトレーナーも一堂に会して行う予定ではありましたが、大会日程の関係で実施できなかったため、3月の男子ナショナル合宿を利用させていただき、21日、22日、大同特殊鋼星崎体育館にて実施いたしました。

審判委員会より、加藤・斉藤、審判は仲田・植村、楓・渡辺の2ペア、監督・コーチ30名が参加しました。

今回はただ単に新競技規則の伝達だけではなく、このところ、チームトレーナーとレフェリーとの距離が少し開いている感がしていましたので、これを解消する機会の一つとして考えていました。

レフェリーの立場から言えば、ベンチ内におけるトレーナー・プレーヤーのマナーに問題が多く、特に全国各地を転戦し、国内最高のゲームと言われる日本リーグを審判するのは、最高の名誉と言われて担当したけれど、雰囲気的に満足感が得られないのでご遠慮したい。

トレーナーの立場にすれば、我々は勝負に徹し必死に戦う。したがって自分有利に見ての文句が出るのは仕方のないところ。それよりプレーヤー個々の力量や、チームプレーをもっと発揮させるコンダクターとなってもらいたい。となるであろうと思う。いずれにしても、双方の努力が必要である。それも試合が終わった直後の当事者同士の話し合いは、冷静でいるつもりではあっても管理した者、された者との立場に立つため、感情を拭いさることは非常に困難であります。したがって、大会とは全く関係のない時の研修会が必要であると考えていました。

研修会は、大西常務理事より指導者の資格に関する制度と、資格取得に関する情報・説明から始まりました。スポーツクラブの指導者は人体に関する総合的知識を基盤に選手の育成に携わらなければならないと。そのために学習をして資格を取得しないと今後指導できないと警告も発せられました。

蒲生監督からは今回の合宿練習のポイント、本年度のチーム行動等の説明があり、所属チームに帰っても技術低下の生じないよう指導依頼がありました。

酒巻コーチより食事・栄養・体重の変化に関する報告があり、せっかく体重を増加させても、チームに帰った2~3ケ月で元に戻っていた事実があり、継続した食事管理を望むという要望がありました。

新競技規則の説明の後、実技による研修会に入り、2日目も同様な実技研修を行い、午前中の研修で終了、解散しました。

前夜の懇親会において、大人の本音を出し合うことができ、この研修会の本当の目的を達成することができたかなと思える良いムードでした。

今回の研修会で出た話題は、スローオフ時の不正に対する判定の厳しさ、いわゆるルール通り守らせるのか、ステップシュート、バウンドパス時に防御の目的で足を上げる行為をどう判定するか。といったものが出ましたが、レフェリーサイドへの注文としては、

1　プレーを正確に見て欲しい。

ナイスデフェンスが7mに判定されたり、デフェンスが何もしていないのに、プレーが止まるとデフェンスの反則になったり。本当にデフェンスが故意にエリア内に入って守ったのか。

2　プレーをさせて欲しい。

確かに捕まれてはいるが、3歩3秒使っていないのに止められてしまう。

明らかなシュートチャンスなのに、他のポイントの反則で止められる。

大してずれていないのに、ポイント修正で速攻が潰される。

裁く人ではなく、点を取り合う面白さを会場全体にみなぎらせる指揮者になって欲しい。

初めての試みであり、運営に工夫を要するものもありましたが、1年に1度定期的に実施して欲しいという声を得て終了致しました。

平成10年版ルール解釈の訂正について

(財)日本ハンドボール協会審判委員会

平成10年度シーズンも開幕いたしましたが、合同会議にて確認いたしました「競技規則第10条」のルール解釈の一部に、IHFの解釈と異なる部分がありましたのでここに訂正いたします。

ご確認の上、関係各位に周知徹底の程、よろしくお願い申し上げます。

「スローオフを行う際の足の位置について」

〈旧解釈〉

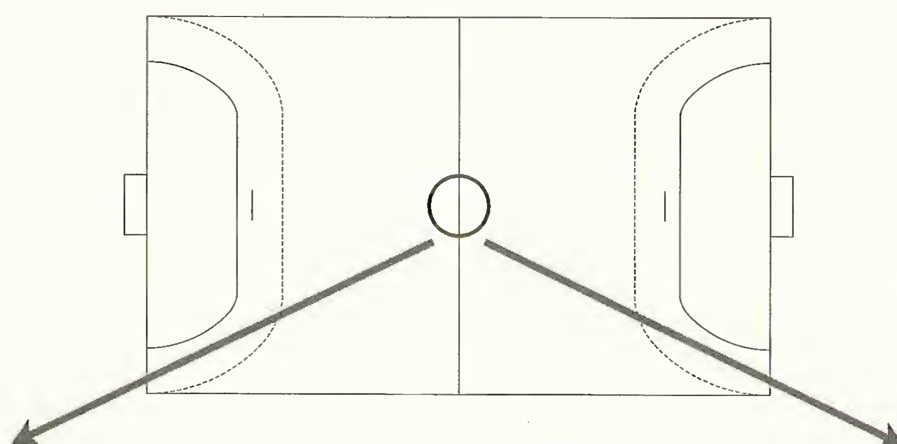
スローオフを行うプレイヤーは、ボールを離すまで、片方の足をセンターラインの上に置いておかなければならないが、「もう一方の足」は、何処にあってもよい。

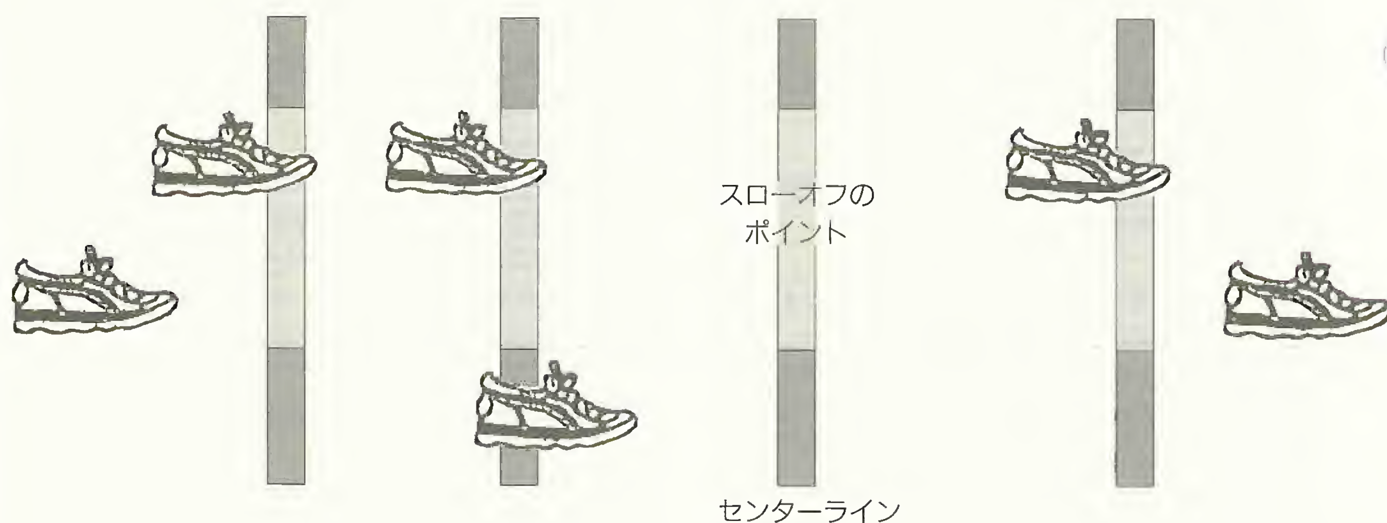
〈新解釈〉１９９８年３月９日ＩＨＦ発

スローオフを行うプレイヤーは、ボールを離すまで、片方の足をセンターラインの上に置いておかなければならない。「もう一方の足」は、センターライン上か、自陣のサイドに置かなければならない。

〈図参照〉

尚、この解釈は平成10年４月１日より実施される。





平成10年度

〈高松宮杯〉
男子41回・女子34回

全日本学生
ハンドボール選手権大会要項

主　催
全日本学生ハンドボール連盟
(財)日本ハンドボール協会

後　援
愛知県教育委員会
(財)愛知県体育協会
名古屋市教育委員会
(財)名古屋市体育協会
毎日新聞社

協　賛
㈱アシックス・㈱モルテン・大塚製薬株式会社

主　管
東海学生ハンドボール連盟
愛知県ハンドボール協会
名古屋市ハンドボール協会

開 催 日
平成10年11月17日(火)～22日(日)6日間
※開会式11月17日(火)名古屋市公会堂

会　場
中村スポーツセンター
枇杷島スポーツセンター
天白スポーツセンター
露橋スポーツセンター

試合形式
トーナメント形式。
3位決定戦なし。両チーム3位とする。
全日本総合の学生チームの出場枠によって、出場決定戦を実施するか決定する。

競技規則
平成10年度日本ハンドボール協会競技規則による。なお、大会使用球はモルテンの手縫いボールとし、男子は42面の白黒、女子は42面の白赤とする。

参加資格　都道府県協会を通し、日本ハンドボール協会の平成10年度登録を完了し、全日本学生ハンドボール連盟に登録済みの大学男子・女子チームで、全日本学生ハンドボール連盟より推薦されたチーム及び北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中四国、および九州の学生連盟から推薦された代表チームであること。

参加人数
(1)1チームは、20名。申し込み後のメンバー変更は認めない。ただし、背番号は、No.1～20の通し番号とする。
(2)コーチは、2名以内とし、全日本学生ハンドボール連盟に登録のこと。登録されたコーチのみベンチに入ることができる。
(3)各チームは引率責任者に引率され大会に参加すること。責任者は大学の専任教職員、又は部長が任命した引率責任者であること。ベンチに入ることのできる参加者は、部長、監督、コーチ、マネージャー、選手として登録された者とする。

参 加 料
1チーム　5,000円

申込方法
申込用紙に必要事項を記入して、下記へ簡易書類で送付する。
〒467ー0806　名古屋市瑞穂区瑞穂通3丁目21番地
丸美産業株式会社内
東海学生ハンドボール連盟事務局　宛
申込期日　平成10年10月10日(土)必着

組 合 せ
組合せ抽選は、主催者が行い、各チームに連絡する。

諸 会 議　平成10年11月17日
会　場　名古屋市公会堂（予定）
(1)審判会議　14:00～
(2)代表者会議　15:00～　男女2名まで出席のこと

障害保険　本大会に参加するチーム構成員（選手・主務は全員。部長、監督、コーチ、引率責任者は任意）は、障害保険に必ず加入しなければならない。

そ の 他
(1)選手の背番号は、申込時から大会終了まで変更できないので十分注意すること。
(2)ベンチに入れる資格・人数は申込書によって登録参加されたもので、規程の人数以内であること。
(3)シューズは屋内、屋外それぞれ専用を必ず用意すること。

来たれ!! 第6回全日本ハンドボールマスターズ大会

大会趣旨

本大会の過去5回会の大会は、わが国のハンドボール界における指導者としての教職員が、これまでの努力を互いに讃え、親睦と友情を深めることを目的として行われてきたが、教職員のみに拘らず、一定の年齢以上のハンドボーラーが一堂に会し、広く生涯スポーツとして楽しみ、親睦と友情を深める機会とすることが、わが国のハンドボールのさらなる発展と普及と願った所期の目的に合致すると考え、開催するものである。



●大会期日　平成10年8月8日（土）～8月9日（日）

●大会会場　豊田市体育館

●参加資格　男女とも年齢制限を設ける。男子は40歳とし、チーム編成上38歳以上の選手を2名まで含むことができる。女子は35歳を下限とする。個人の参加も可。申し込み、問い合わせ先は大会事務局へ。

☆大会事務局
〒470−0348
愛知県豊田市貝津町床立101
中京大学体育学部内　小山哲央宛
TEL0565−45−0971
内線544
FAX0565−46−1297

過去5回の出場チーム

■男子

ATF（愛知）・兵庫選抜（兵庫）・埼玉46G会（埼玉）・知多クラブ（愛知）・埼玉フェニックス（埼玉）・サンフレ広島（広島）・豊田市クラブ（愛知）・オールド愛媛（愛媛）・全教員三重（三重）

■女子

ガンバルズ（大阪）・武蔵野クラブ（関東）・中部ドリームズ（東海）・瀬戸内レディース（中四国）・東花レディース（関東）・寝屋川クラブ（大阪）・1997飛勇太クラブ（熊本）

お知らせ

平成10年度第6回全日本ハンドボールマスターズ大会が8月8日（土）～9日（日）豊田市体育館で開催されます。大会期間中には楽しい親子の「ボールゲーム大会」を企画しております。参加料は無料ですので（一般の方々の参加も大歓迎です）どうぞふるってご参加下さい。

申し込みと問い合わせは下記大会事務局へお願いします。

●企画　親子のボールゲーム大会
●期日　8月8日（土）12：00
●場所　豊田市体育館
●申し込み締切　7月22日（水）

マスターズ大会の個人参加も受付していますので合わせて申し込みをどうぞ！（問い合わせ及び申込先は大会事務局へ）

☆大会事務局
〒470−0348
愛知県豊田市貝津町床立101
中京大学体育学部内　小山哲央　宛
TEL0565−45−0971
内線544
FAX0565−46−1297



MINI-HANDBALL
MACHT SPASS

学校体育ハンドボール検討委員会

沖縄県　宮城小学校
嵩原　一子先生

簡易ハンドボール指導の実践報告書

	ねらいと活動	指　導
はじめ5分	1　学習のねらいを理解し、学習の進め方について見通しをもつ。 ◆どのような学習をするのか、シュートゲームの楽しさやルール等を説明し理解させる 2　グルーピングと役割分担をする。 ◆1グループ4～5人の男女混合異質グループをつくる。 ◆リーダー、審判、得点、時計係などを決める。	
なか① 2時間10分	**ねらい1**　いろいろなチームとゲームをして楽しむ。 ①　コートをつくる。 ・3グループに1面ずつ、教師の指示の下で協力し合ってつくる。 14m 10m　2m ②　グループごとにゲームをする。 ・ルールを確認し合い、グループを2つのチームに分けてゲームに入る。 ルール ・3歩まで動いてよい。そこからはパスをする。 ・ボールを持っている人には触らない。 ・シュートがゴールに入れば1点 ・ゲームの合間に、チームで前のゲームについて話し合いをしたり、シュートの練習をしたりする。 練習例 ・チームでボールを投げ、パスの練習をする。 ・パスをもらって、カラーコーンの間を通るように投げ、シュート練習をする。 ③　次のことについて、グループで話し合いをする。 ・力いっぱいシュートゲームができたか。 ・きまりを守り、楽しくシュートゲームができたか。	・コートの大きさを指示するコートの大きさは、子どもの実態に応じて決める。 ・ゲームの方法がわかっているか、ルールや決まりを守っているかどうかを観察し必要に応じて指導、助言する。 ・1回のゲームは5分とし、全員が等しくシュートを決めるように指導する。 ・ボールがうまく投げられない子やとれない子には、実際に行なって、見せながら指導する。 ・話し合いのしかたや反省の方法。手順について助言する。

1　単元名「シュートゲーム」

2　児童の準備状況の把握：ボールを扱う能力の差が大きい。ボールを怖がる児童がいる。

3　種目特性のとらえ方：ボールを持って走ったりパスしたりして相手のゴールにシュートし、得点を競い合う楽しい運動である。男女ともほとんどの子どもが大好きで、協力しあって攻める集団技能が使え、グループ間の競争にも興味を向けることができる。

4　教材化における工夫

(1) コートの大きさ：14×10m　(2) ゴール：カラーコーン（高さ75㎝）(3) ルール：はじめの階段→進ん

だ段階(「学習と指導」参照)
5　学習と指導(図表)
6　実践結果：ボールを怖がっていた児童が楽しそうに動いていた。

シュートが決まった時の個人としての楽しさが増すゲームである。技術やルールを高めて遊ぶこともできるようになった。さらに、チームとしての楽しさがわかり、味方どうしの協力的な動作も考えるようになった。

なか② 3時間45分	**ねらい2**　作戦を立てて、対戦したいチームとゲームをして楽しむ。 ①　コートをつくる。 ・3グループに1面ずつ、みんなで協力し合ってつくる 14m（横の線） 10m（縦の線）　2m 安全地帯 ②　ゲームの組合せや、審判、得点、時計係をするグループを決める。 ・リーダーどうしで話し合って決める。 ③　ゲームをする。 ルール ・1試合6分 ・コートの人数は5対5（4対5の場合もある。） ・3歩まで動いてよい。そこからはパスをする。 ・ボールを持っている人には触らない。 ・キーパーをおく。(安全地帯の中にいる。) ・安全地帯には、キーパー以外の人は入れない。 ・得点されたあとは、キーパーからボールを出す。 ・縦の線からボールが出たら、キーパーのボール、横の線からボールが出たら、相手のボールになる ・組合せに従ってゲームをする。 ・ゲームの合間にグループで、前のゲームについて話し合ったり、パスやシュートの練習をしたりする。 ④　次のことについて、グループで話し合いをする。 ・力いっぱいシュートゲームができたか。 ・きまりを守り、楽しくシュートゲームができたか。	・コートの大きさを指示するコートの大きさは、子どもの実態に応じて決める。 ・決められないときは、教師の指導を通して決める。 ・ゲームの方法がわかっているか、ルールや決まりを守っているかどうか観察し必要に応じて指導、助言を行う。 ・ボールを上手に投げることができない子やボールをとることができない子には、適宜指導する。 ・話し合いのしかたや反省のしかたについて助言する。
まとめ5分	1　次のことについて、グループや学級で話し合い、単元のまとめと学習の反省を行う。 ①力いっぱい楽しくゲームができたか。 ②仲よくゲームができたか。 ③きまりがわかり、自分たちでゲームができたか。 自分の学習を振り返って、感想を書く。	

（ナイジェリア）／NIG（ニジェール）／RSA（南アフリカ）／RWA（ルワンダ）／SEN（セネガル）SLE（シェラレオネ）／SOM（ソマリア）／STP（サントメプンシペ）／SUD（スーダン）／TAN（タンザニア）／TOG（トーゴ）／TUN（チュニジア）／UGA（ウガンダ）／ZAI（ザイール）／ZIM（ジンバブエ）

44カ国

★アジア

BAN（バングラデシュ）／BRN（バーレーン）／CHN（中華人民共和国）／HKG（ホンコン）／IND（インド）／IRI（イラン・イスラム共和国）／IRQ（イラク）／JOR（ヨルダン）／JPN（日本）／KAZ（カザフスタン）／KGZ（キルギスタン共和国）／KOR（大韓民国）／KSA（サウジアラビア）／KUW（クウェート）／LIB（レバノン）／MAS（マレーシア）／NEP（ネパール）／OMA（オマーン）／PAK（パキスタン）／PHI（フィリピン）／PLE（パレスチナ）／PRK（朝鮮民主主義人民共和国）／QAT（カタール）／SYR（シリア）／TKM（トルクメニスタン）／TPE（チャイニーズ・タイペイ）／UAE（アラブ首長国連邦）／UZB（ウズベキスタン共和国）YEM（イエメン）　＊（マカオ）　30カ国

★ヨーロッパ

ALB（アルバニア共和国）／ARM（アルメニア共和国）／AUT（オーストリア）／AZE（アゼルバイジャン共和国）／BEL（ベルギー）／BIH（ボスニア・ヘルツェゴビナ）／BLR（ベラルーシ共和国）／BUL（ブルガリア）／CRO（クロアチア）／EYP（キプロス）／CZE（チェコ共和国）／DEN（デンマーク）／ESP（スペイン）／EST（エストニア）／FAR（フェロー諸島）／FIN（フィンランド）／FRA（フランス）／GBR（イギリス）／GEO（グルジア）／GER（ドイツ）／GRE（ギリシャ）／HUN（ハンガリー）／IRL（アイルランド）／ISL（アイスランド）／ISR（イスラエル）／ITA（イタリア）／LAT（ラトビア）／LIE（リヒテンシュタイン）／LTU（リトアニア）／LUX（ルクセンブルグ）／MDA（モルドバ）／MKD（マケドニア）／MLT（マルタ）／NED（オランダ）／NOR（ノルウエー）／POL（ポーランド）／POR（ポルトガル）／ROM（ルーマニア）／RUS（ロシア）／SLO（スロベニア）／SUI（スイス）／SVK（スロバキア）／SWE（スウェーデン）／TUR（トルコ）／UKR（ウクライナ）／YUG（ユーゴスラビア）　46カ国

★オセアニア

AUS（オーストラリア）／NZL（ニュージーランド）／VAN（バヌアツ）／＊SAM（西サモア）　4カ国

★パンアメリカ

ARG（アルゼンチン）／BRA（ブラジル）／CAN（カナダ）／CHI（チリ）／COL（コロンビア）／CRC（コスタリカ）／CUB（キューバ）／DOM（ドミニカ共和国）／GUA（ガァテマラ）／HON（ホンジュラス）／MEX（メキシコ）／PAN（パナマ）／PAR（パラグアイ）／PUR（プエルトリコ）／URU（ウルグアイ）／USA（アメリカ合衆国）　＊GRL（グリーンランド）／＊NCA（ニカラグア）　18カ国

＊印はIHF加盟予定国

1998年3月末現在IHF加盟国　142カ国

●大陸間カップは10月に決定

すでに報告したとおり、IHFの援助によりカタールハンドボール協会は、男子ナショナルチームのための第1回大陸間カップを開催する。アジア、アフリカ、ヨーロッパ、パンアメリカの現在のチャンピオンが参加チームである。開催国も参加する。

カタール協会より党大会の日程は、1998年10月7～12日であると報じられた。現在のところ、アルジェリア（アフリカ）、クエート（アジア）、キューバ（パンアメリカ）がその参加を確認している。ヨーロッパの代表チームは7月はじめイタリアで行われるヨロッパ選手権の際に決定される。

●ビーチハンドボール：新ルール

国際及びヨーロッパハンドボール連盟の共同作業グループは、ビーチハンドボールの現行のルールを改訂、更新した。新ルールはIHFの評議会で採択された。このルールは全ての国際競技で適用され、バーゼルのIHF事務局で入手可能である。

●1999年チュニジア・シンポジウム

監督と主席レフェリーのための次回のIHFシンポジウムは1999年にチュニジアで行われる。このことは前回のIHF評議会で決議された。接戦投票で対するドイツを破った。

●1999年世界選手権 エジプトの4つの開催地

1999年世界選手権はエジプトの4つの会場で行われることが計画されている。この情報は国際ハンドボール連盟に、開催委員会からもたらされたもの。予選ラウンドとベスト8、決勝は、カイロ、ポートサイド、アレクサンドリア、イスマイリアで行われる。準々決勝と準決勝戦もエジプトの首都で行われる。

開催者は新たなWC日程（6月1日～15日）で、決勝は火曜日に行われることも確認した。

5月にIHFの代表団がエジプトを訪れ、WC契約の詳細について交渉する。その際に担当当局がセキュリティー方法について質問を受ける。

一方IHFは最新WCランキングに従って個々の大陸に与える枠を決定した。配分は以下のとおり。

アジア　4
アフリカ　4
ヨーロッパ　10
オーストラリア（オセアニア）　1
パンアメリカ　3

自動的に資格を得ている現在の世界チャンピオンのロシアと、開催国のエジプトの参加が決まっている。

同様に、1999年の他の3つの選手権の大陸枠の数は以下のとおり決定した。

女子（ノルウェー、12月5日～19日）
世界チャンピオン：デンマーク
開催国：ノルウェー
アジア　4
アフリカ　3
ヨーロッパ　11
オーストラリア（オセアニア）　1
パンアメリカ　3

男子ジュニア（カタール、8月22日－9月5日）
開催国：カタール
アジア　3
アフリカ　4
ヨーロッパ　10
ヨーロッパ・オセアニア勝者　1
パンアメリカ　1

女子ジュニア（中国、8月1日－15日）
開催国：中国
アジア　4
アフリカ　2
ヨーロッパ　10
ヨーロッパ・オセアニア勝者　1
パンアメリカ　2

●2001年世界選手権日程

2001年の世界選手権の日程もすでにIHFによって以下のように設定された。

男子A……………1月20日または21日～2月3日または4日
女子ジュニア……7月29日～8月12日
男子ジュニア……8月19日～9月2日
女子………………12月2日～12月16日

これらの選手権大会は今年9月ヤムスクロ（コートジヴォワール）でのIHF総会で認められる。

●新たに3会員が承認

前回のバーゼルでのIHF評議会で、満場一致でニカラグア、マカオ及び西サモアの国々を暫定会員として承認する決議をとった。1998年の総会でグリーンランドを含む4会員が正式会員として認められる。

これにより、IHFは会員協会数は142となり、大陸別会員数は、アフリカ44、アジア30、ヨーロッパ46、オセアニア4、パンアメリカ18となった。

【IHF　加盟国大陸別リスト】

★アフリカ

ALG(アルジェリア)／ANG(アンゴラ)／BDI(ブルンジ)／BEN(ベナン)BUR(ブルキナ・ファソ)／CAF(中央アフリカ)／CGO(コンゴ)／CHA(チャド)／CIV(アイボリーコースト)／CMR(カメルーン)／COM(コモロ諸島)／CPV(カーベルデ)／DJI(ジブチ)／EGY(エジプト)／ETH(エチオピア)／GAB(ガボン)／GAM(ガンビア)／GBS(ギニア・ビサ)／GHA(ガーナ)／GUI(ギニア)／KEN(ケニア)／LBA(リビア)／MAD(マダカスカル)／MAR(モロッコ)／MLI(マリ)／MOZ(モザンビーク)／MRI(モーリシャス)／MTN(モーリタニア)／NAM(ナミビア)／NGR

平成10年度登録について

各チームは都道府県協会の定めた期日までに登録を完了して下さい。各種別の登録用紙は都道府県協会にあります。

以下、登録について説明します。

1。登録用紙は6種類、9種別です。

(1)「一般L・一般A」「大学」「高専・高校」「リージョナル」「中学」「小学生・スポーツ少年団」に区分されていますので、該当する種類の用紙で種別ごとに登録して下さい。小学生については実態把握のために行うものですが、ご協力下さい。

年度内にチームの種別の変更はできません。

(2)種別の異なる登録用紙を使用して、他の種別の登録はできませんのでご注意下さい。

2。登録規程第2条にしたがって、チーム及び個人は日本協会に登録して下さい。登録を行わなければ日本協会、各都道府県協会、または各連盟が主催、共催する大会に選手として参加することはできません。

3。種別について

(1)「一般L」について

日本リーグ加盟チームのことで、すべての大会に参加資格があります。

(2)「一般A」について

日本リーグ以外のすべての大会に参加資格があります。

(3)「リージョナル」について

都道府県内での大会のみ参加資格があります。「リージョナル」種別のチームに登録した選手は、国民体育大会（予選も含む）に参加資格はありません。

(4)「大学」について

全日本学生連盟に登録し、日本協会に登録したチーム及び個人を指します。これ以外の大学生は、「一般A」もしくは「リージョナル」登録となります。

4。選手証の発行について

(1)「一般L」「一般A」「大学」に登録した個人はコンピューター入力をし、選手証を発行します。有効期間は当該年度末までです。選手証のNo.は生涯No.です。紛失等で再発行する場合は、事務処理費として500円のご負担をいただきます。

(2)「高専」「高校」に選手証を発行します。個人登録はコンピューター入力を行いませんので、個人番号は生涯No.ではありません。各都道府県協会登録後、各都道府県高体連事務局から発行します。

5。追加登録（新規）について

登録規程第11条により、追加登録は下記のように認められます。

登録締め切り後のチーム、及び、個人の登録は、次の場合の限り、認められます。

1　チームを新設したとき。

いつでも申請手続きをし、登録することができます。

2　個人を追加登録するとき。

個人の追加は、申請があれば、審査の上、随時登録ができます。

追加登録（新規）とは、当該年度に、どのチームにも所属してなく、登録締め切り後、初めて登録することをいいます。

追加登録（新規）を申請するときは、本年度から書式を変更した所定の用紙を用い、都道府県協会で審査の上、日本協会に提出して下さい。

日本協会が受理した日をもって登録手続きが完了したこととします。ただし、登録規程第12条にあるとおり、個人登録申請書に虚偽の記述があった場合は、調停・裁定委員会で審議の上、登録を拒否すること、あるいは取り消すことがあります。

6。登録抹消について

当該年度にいずれかのチームに登録をし、その後、何らかの理由によりチームをやめる場合は、本年度から書式を変更した所定の用紙を用い、都道府県協会で審査の上、登録抹消届けを日本協会に提出して下さい。特に、追加登録（移籍）を申請しようとするときは、必ず登録抹消手続きを完了させて下さい。

日本協会が受理した日をもって登録抹消手続きが完了したこととします。ただし、登録規程第12条にあるとおり、個人登録申請書（個人の登録抹消届を含む）に虚偽の記述があった場合は、調停・裁定委員会で審議の上、登録を拒否すること、あるいは、取り消すことがあります。

7。追加登録（移籍）について

登録規程第16条により、個人は、登録したチームから別のチームに、あるいは、新たに登録しようとするチームに移籍することができます。

追加登録（移籍）とは、当該年度にあるチームに登録し、その後、そのチームから登録抹消手続きを完了し、別なチームに登録しよう

とすることをいいます。また、当該年度当初、チームに登録し、その後、そのチームから登録抹消をし、数カ月を経た後、別のチームに登録しようとする場合は、追加登録（移籍）の手続きをしなければなりません。

追加登録（移籍）を申請できる個人とは、原則として当該年度にいかなるチームにも所属していないことが条件になります。当該年度にいずれかのチームに所属したときは、速やかに登録抹消手続きを完了させることが必要です。

追加登録（移籍）の1度目は、当該年度内のいつでもできます。一度追加登録（移籍）をした場合は、当該年度2番目の登録チームに3カ月間在籍しなければなりません。3カ月経過しなければ2度目の追加登録（移籍）はできません。

追加登録（移籍）を申請するときは、本年度から書式を変更した所定の用紙を用い、都道府県協会で審査の上、日本協会に提出して下さい。日本協会が受理した日をもって登録手続きが完了したこととします。ただし、登録規程第12条にあるとおり、個人登録申請書に虚偽の記述があった場合は、調停・裁定委員会で審議の上、登録を拒否すること、あるいは、取り消すことがあります。

8。重複登録の禁止

登録規程第6条より、個人の登録は1つのチームのみとして、重複登録を禁止しています。

個人とは、日本協会、各都道府県協会、または、各連盟が主催、共催する大会に、競技者として参加する者を指しますので、各団体の下部組織が主催、共催する大会に参加する場合もこの規程が適用されます。

なお、国民体育大会に参加する場合、または選抜チームを編成して大会に参加する場合は、登録規程第7条にあるように、別に定められていますので、それぞれの大会要項をご参照下さい。

9。登録用紙記入の際の注意事項について

チームが登録用紙に記入する際、下記事項に留意するようご徹底下さい。なお、前年度の登録一覧表（但し全項目は入っていない）を各チームに配布しますので、ご参照下さい。

(1)コンピューターに入力するために正確に記入して下さい。

(2)〈新規・継続〉、種別、加入連盟及び男女別欄は該当に○印を付けて下さい。99。その他の場合は、（カッコ）内に所属連盟（団体）名を記入して下さい。各種別の登録用紙の裏面参照して下さい。

(3)登録選手人数欄には、登録する選手の合計数を記入して下さい。役員数は含みません。

(4)チームNo.、チーム名は前年度と同じにして下さい。チーム名を変更する場合は、別途「チーム名変更届（理由書）」（書式任意）を添付して下さい。

(5)チーム所在地は日本協会選手証や各種通信物が確実に届くところを正確に記入して下さい。送付先団体名が必要な場合は、必ず記入して下さい。機関誌送付先も同様です。

(6)チーム所在地、機関誌送付先を変更する場合は速やかに日本協会までご連絡下さい。

(7)各箇所のフリガナ欄には必ずカタカナで記入して下さい。郵便番号(〒)は必ず新7桁番号を記入して下さい。住所欄への都道府県名記入は不要です。

(8)役員欄の責任者は必ず記入して下さい。役職欄は部長、監督、コーチなどを記入して下さい。整理No.は前年度個人No.となっていたものです。役員の整理No.は選手の個人No.と違い選手証などの発行には関係しませんが、登録整理上必要な番号ですので記入して下さい。今年度、新規に着任する役員は(新)と記入して下さい。

(9)前年度登録した選手個人には、生涯個人No.を付けてあります。今年度も必ず個人No.を付けて登録して下さい。今年度、新規に個人登録する人は(新)と記入して下さい。

(10)選手欄の番号はユニフォーム番号とは関係ありません。上から詰めて記入して下さい。

(11)過去に登録した個人が新規に登録をし、個人No.を取得すると重複登録としてリストアップされます。特に、種別が変わる（大学→一般Aなど）、移籍などは、前年度の個人No.を確認し記入して下さい。

(12)生年月日は西暦で記入して下さい。昭和の場合は年号に25を足せば西暦下2桁になります。

(13)「契／非」欄：選手契約の有無について契約・非契約を○印で囲んで下さい。

(14)職業（勤務先）は出来るだけ詳細に記入して下さい。
例：会社員（○○㈱）、教員（○○高校）、学生（○○大学○学部○年）

(15)平成9年度国民体育大会に出場された方（ブロック大会及び都道府県大会を含む）は、「前年度国体出場都道府県名」と「出場チーム名」欄に記入して下さい。

10。国民体育大会参加のための「国体一時登録」について

第53回国民体育大会のハンドボール競技実施要項を参照して下さい。

11。機関誌について

(1)各種別に登録されたチームに1冊送付します（リージョナル、中学校、小学校は除く）。

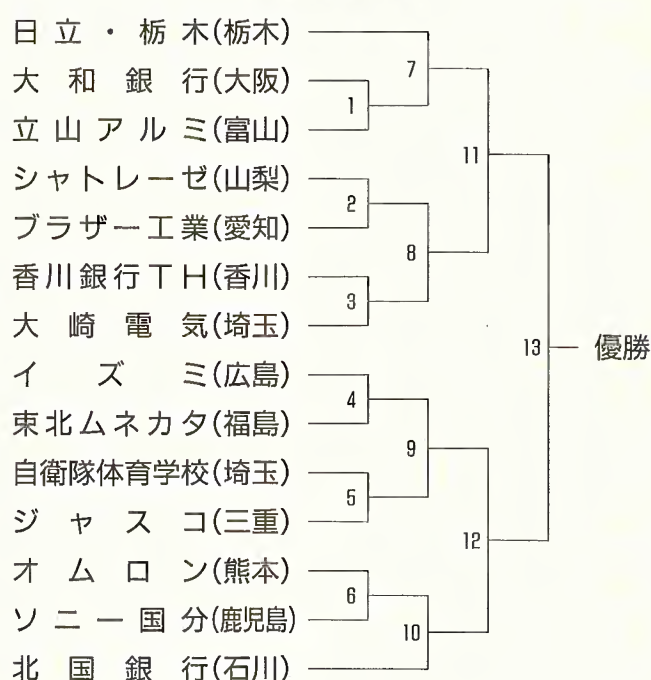
(2)機関誌年度は、平成10年7月～11年6月です（1月休刊、年11回発行）。

高松宮杯第39回全日本実業団ハンドボール選手権大会組合せ

〈男子の部〉



〈女子の部〉



男子 順位決定戦

13敗者・14敗者 — 19 — 3位

5敗者・7敗者 — 11
6敗者・8敗者 — 12
11・12 — 18 — 5位

11敗者・12敗者 — 17 — 7位

1敗者・3敗者 — 9
2敗者・4敗者 — 10
9・10 — 16 — 9位

9敗者・10敗者 — 15 — 11位

女子 順位決定戦

11敗者・12敗者 — 14 — 3位

7敗者・8敗者 — 15
9敗者・10敗者 — 16
15・16 — 18 — 5位

15敗者・16敗者 — 17 — 7位

B・C — a
A・a — c
D・E — b
b・F — d
c・d — e — 9位

c敗者・d敗者 — f — 11位

a敗者・b敗者 — g — 13位

CONTENTS 5月号

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第三八四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十年四月二十六日印刷 平成十年五月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む